

令和元年度 診療科別目標発表会



令和元年6月19日（水）

17:30 開会

17:40 発表開始

①総合内科 ②糖尿病・内分泌内科 ③腎臓内科 ④神経内科 ⑤呼吸器内科 ⑥消化器内科 ⑦循環器内科
⑧外科 ⑨整形外科 ⑩脳神経外科 ⑪小児科 ⑫産婦人科 ⑬泌尿器科 ⑭皮膚科 ⑮眼科
⑯耳鼻いんこう科 ⑰腫瘍放射線科 ⑱麻酔科 ⑲歯科口腔外科 ⑳救急科 ㉑宮地企業長兼院長発表
18:45 講評、閉会

令和元年度 診療科目目標発表

総合内科 General Internal Medicine

1

総合内科

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	基幹病院の総合診療医としての機能向上
2	診療実績	地域連携強化による紹介患者の確実な受け入れ
3	教育研修	臨床研修センター長として院内教育全般の質向上

3

総合内科



	氏名	役職
1	伊藤 裕司	部長(診療科長)兼 臨床研修センター長
2	牧 隆太郎	部長

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	29.5人/日	30.0人/日
入院患者数	20.7人/日	12.0人/日
糖尿病紹介患者数	34人/4ヶ月	78人/年

2

総合内科

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	基幹病院の総合診療医としての機能向上
	項目	目標 達成状況
1	糖尿病診療方法の確立	教育入院の質向上 ?
2	耐性菌抑止への努力	ASTと協力をして院内感染症診療の補助 達成
3	専門医不在領域のカバー	根拠に基づいた診療に取り組む 血液内科・内分泌内科・膠原病内科・感染症内科 達成

臨床研究
始めました

基幹病院の総合診療医としての機能を十分に発揮するとともに、地域開業医との連携により糖尿病の入院診療機能の向上を図ります。

4

2 診療実績 地域連携強化による紹介患者の確実な受け入れ

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	紹介患者の確実な受け入れ	紹介患者数 600件／年	662件／年	達成
2	糖尿病教育入院患者の増加	入院患者数 100人／年	63人／年	残念！

地域医療機関との信頼を構築し紹介患者を確実に受け入れます。

5

令和元年度 目標

1	医療の質	基幹病院の総合診療医としての機能向上
2	診療実績	担当した患者の予後改善
3	教育研修	数年後に必要となることへの投資

7

3 教育研修 臨床研修センター長として院内教育全般の質向上

	項目	目標	達成状況
1	教育体制の強化と研修医の確保	初期研修医への到達レベルの明確化と質の向上	ほぼ達成
2	新専門医制度に対応した専攻医教育の充実	症例検討会、勉強会、研修会の定例的な実施 次年度専攻医の確保	未達成
3	糖尿病治療水準の向上	地域の糖尿病勉強会に参加 2回／年	達成

臨床研修センター長として初期研修の充実を図り、優秀な内科医の育成に努めます。

6

1 医療の質 (れ) 零細企業ですが

	項目	目標
1	糖尿病診療方法の確立	悪性腫瘍の早期発見
2	専門医不在領域のカバー	根拠に基づいた診療に取り組む
3	糖尿病教育入院の効果の証明	今年度中にデータまとめて学会発表

基幹病院の総合診療医としての機能を十分に発揮するとともに、当科での診療の質検討を行います。

8

2 診療実績 (い) 以前よりも少しでも前進

	項目	目標	平成30年度実績
1	入院患者の死亡の減少	全担当患者における死亡割合 <5%	5%/年
2	糖尿病急性期合併症の入院患者数減少	高血糖緊急症+低血糖 25人以下/年	32人/年

地域医療機関との連携をより密にして、患者予後の改善を図ります。

9

3 教育研修 (わ) 若い世代のための投資を

	項目	目標
1	教育体制のさらなる強化	初期研修医の到達レベルの明確化と各科プログラムの改善
2	災害時の糖尿病支援体制確立	行動計画の策定
3	抗菌薬適正使用サポートチーム	院外(市民含む)への啓蒙

数年後に必要となる事態に対して準備を行いつつ、当院の診療の地盤安定に寄与します。

11

中東遠総合医療センター 入院契機病名調べ

期間	糖尿病急性期合併症の入院患者数
2016年4月～2017年3月	24人（低血糖 10人、高血糖 14人）
2017年4月～2018年3月	29人（低血糖 14人、高血糖 15人）
2018年4月～2019年3月	32人（低血糖 17人、高血糖 15人）

低血糖での入院患者が増えている

10

決意

担当患者の予後改善と
当院/当地域に今後必要となる事案への対応を！

12



中期目標

5年後の目指す姿

????

研修医が院内での様々な活動により参加し、診療などの質向上に積極的に関わっていける研修システム確立

診療所のニーズに即した診療体制(栄養指導含む)

13



15



14



16



令和元年度 診療科目目標発表

糖尿病・内分泌内科 Diabetes Medicine and Endocrinology

17

糖尿病・内分泌内科

A

チーム診療の推進

要点：

血糖コントロールは患者さんが日常生活の中で行う主体的活動に依る。**治療よりも療養。**
 それゆえ、**患者指導**が非常に重要。患者指導において**コメディカル・スタッフ**が果たす役割は大きい。

方針：

- ①カンファランス、勉強会の回数を増やす
- ②真の戦力となる**エキスパートの養成**を目指す

結果：

カンファランス開催数は**目標の1／3程度**
 エキスパートはベテランのみ（若い人の成長は乏しい）

19

糖尿病・内分泌内科

平成30年度

目標

自己評価

A

チーム診療の推進

△～×

B

他科入院血糖管理の充実

○

C

地域連携の強化

△

18

糖尿病・内分泌内科

A

チーム診療の推進

今後の対策：

医師、スタッフ、皆忙しいが、**頑張るしかない。**
「意見交換がレベルアップには必須」という意識を持ちたい。

短時間（30分程度）のものを回数多く（月10回程度）
少人数グループ、互いの顔が見えること

若いスタッフの参加を促したい：将来のために

20

B 他科入院患者の血糖管理の充実

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
主科入院	158	184	142	113	114	123
他科入院	294	410	371	360	359	428

主科よりも他科がずっと多く、労力的にも当科の入院診療の中心は他科入院である。
他の診療科とは大きく事情が異なる。
そして、他科入院の診療は、**糖尿病専門医の任務として重要**であると考える。

21

B 他科入院患者の血糖管理の充実

作業の難易度はけっこう高い。

理由：

- ①疾患ストレスにて血糖上昇
- ②ステロイド療法を施行の例も
- ③栄養補給内容の変更が回数多く行われる。
＜例＞食止め（点滴）→食時開始（カロリー小→カロリー増）
食事提供されても摂食不良の例もある。
- ④元々、**血糖コントロール不良例**が非常に多い。

ヘモグロビンA1cの分布（H30/9/1からの連続100例）

ヘモグロビンA1c	～7.9	8.0～8.9	9.0～9.9	10.0～
人数	62	18	4	16人

23

B 他科入院患者の血糖管理の充実

各科よりの依頼件数（2018年9月からの連続100例の検討）

呼吸器内科	16	脳外科	16
循環器科	10	整形外科	9
消化器内科	9	外科	8
神経内科	6	耳鼻科婦人科	5
腎臓内科	4	皮膚科	5
		泌尿器科	4
		産婦人科	3
		眼科	3
		歯科	2
		計	100人

各科から万遍なく、依頼を頂いている。

22

B 他科入院患者の血糖管理の充実

要点：

- 院内各科において糖尿病を合併する患者が非常に多い。
血糖管理不良は
①治療予後に影響を及ぼす
②入院日数の長期化をもたらす **おそれがある**

方針：

- ①依頼に対し即に対応する。
- ②退院後を考慮、早期から患者・家族指導を開始する。
また、
- ③栄養不良の患者がけっこう多いことに気づき、**栄養療法の重要性を意識**するようになった。

24

C 地域連携の強化

目指すことは
地域の糖尿病診療のレベルアップ

地域医師に伝えるべきこと、
それは「**糖尿病の治療原理**」

25

C 地域連携の強化

重要なことは**3つのポイント**を個々・別々ではなく、**総合的に扱うこと**。

どのような方法が適当か？
症例検討は臨床医学の基本である。

ゆえに、**症例を介しての具体的な情報発信**が重要
と考える。
紹介状（返信）の中身のいっそうの充実を
図りたい。

27

C 「糖尿病の治療原理」のポイント

① 目標血糖値を決める

ヘモグロビンA1cだけでなく「血糖値そのもの」の目標値も重要

② 食事療法への関心を高める

- ・糖尿病診療において最も重要
- とくに2型糖尿病では、薬ではなく食事が決め手、血糖降下薬だけでは血糖コントロールは不能。
- ・糖尿病食事療法の基本原則は未だ混沌としている

正解は「カロリー制限」ではなく「緩やかな糖質制限」だろう。
理由：糖質が血糖値上昇、肥満の原因

③ 血糖降下薬を正しく使う

種類がたくさんあることはけっこうなこと
しかし、不適切使用が非常に多い状況がある。

26

令和元年度

目標

A チーム診療の推進

B 他科入院血糖管理の充実

C 地域連携の強化

令和元年度の目標は昨年度と同じ。
より**進化、深化**を図る。

28

令和元年度 診療科目目標発表



腎臓内科 Nephrology

29



腎臓内科

平成30年度

目標の達成状況

1	医療の質	腎臓疾患の早期発見・早期治療とCKD患者への教育入院の推進
2	診療実績	シャント手術、紹介・逆紹介の増加
3	教育研修	大学との連携による教育体制強化 研修医の確保

31



腎臓内科

	氏名	役職
1	赤堀 利行	院長補佐兼診療部長 兼血液浄化センター長
2	武藤 玲子	部長
3	稲垣 浩司	部長
4	佐藤 直和	医長
5	鈴木 浩二	医員

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	28.8人／日	28.8人／日
入院患者数	15.5人／日	19.3人／日
手術件数(内シャント造設等)	6.3件／月	6.3件／月

30



腎臓内科

平成30年度

目標の達成状況

1	医療の質	腎臓系疾患の早期発見・早期治療とCKD患者への教育入院の推進	
	項目	目標	達成状況
1	CKD患者に対する腎臓病教育・教育入院の実施	対象患者全員へ積極的推奨を行う	不十分
2	地域内におけるチーム医療の強化	地域医療機関との研修会等の実施	不十分

地域医療機関との信頼関係を確立し紹介件数を増やすとともに、CKD患者への教育に積極的に取り組み、診療の質向上を図ります。

32

2 診療実績 シヤント手術、紹介・逆紹介件数の増加

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	シヤント関連手術件数の増加	100件／年	75件／年	不十分
2	紹介患者数増加	400人／年	379人／年	不十分
3	逆紹介患者数増加	400人／年	553人／年	達成

シヤント手術の受け入れ体制強化と管理の質向上を目指します。

33

令和元年度 目標

1	医療の質	DKD対策と普及
2	診療実績	シヤント手術、血液浄化センターの稼働向上
3	教育研修	大学との連携による教育体制強化 研修医の確保

35

3 教育研修 大学との連携による教育体制強化
研修医の確保

	項目	目標	達成状況
1	大学と連携し教育レベルの向上を図る	大学院生の継続受入と診療レベルの向上	達成
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育の充実を図り研修医確保につなげる	達成

腎臓疾患への診療技術全般に対する十分な指導を行い、若手医師のレベル向上と研修医の確保を図ります。

34

1 医療の質 腎臓系疾患の早期発見・早期治療とCKD患者への教育入院の推進

	項目	目標
1	CKD+DKD患者に対する腎臓病教育・教育入院の実施	対象患者全員へ積極的推奨を行う
2	地域内におけるチーム医療の強化	地域医療機関との研修会等の実施

地域医療機関との信頼関係を確立し紹介件数を増やすとともに、CKD患者への教育に積極的に取り組み、診療の質向上を図ります。

36

2 診療実績

シャント手術、紹介・逆紹介件数の増加

	項目	目標	平成30年度実績
1	シャント関連手術件数の増加	100件／年	75件／年
2	紹介患者数増加	400人／年	379人／年
3	逆紹介患者数増加	400人／年	553人／年

シャント手術の受け入れ体制強化と管理の質向上を目指します。

37

中期目標

5年後の目指す姿

総合病院内透析センターとしての
地位の確立

1) 他科入院患者のAKI,CKD管理

2) 災害拠点病院としての地域透析医療の連携充実

39

3 教育研修

大学との連携による教育体制強化
研修医の確保

	項目	目標
1	大学と連携し教育レベルの向上を図る	大学院生の継続受入と診療レベルの向上
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育の充実を図り研修医確保につなげる

腎臓疾患への診療技術全般に対する十分な指導を行い、若手医師のレベル向上と研修医の確保を図ります。

38

地域連携強化で信頼される腎臓内科に



慢性腎臓病(CKD)の治療及び患者さまへの教育を推進するとともに、シャント手術を伴う透析の新規導入患者さまについて、紹介・逆紹介の推進により地域の開業医との情報共有・連携を行ってまいります。地域の基幹病院として、患者さまからだけでなく、開業医からも信頼される腎臓内科を目指します。

40



決 意

診療レベルの向上と
地域連携の強化により
信頼される腎臓内科として
地域医療に貢献します

41



43



42



44



令和元年度 診療科目目標発表

神経内科 Neurology

45

神経内科



	氏名	役職
1	若井 正一	副院長兼診療部長
2	吉田 有佑	部長

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	49.3人／日	40.8人／日
入院患者数	17.8人／日	20.0人／日
睡眠入院検査実施件数	34.4件／月	33.8件／月

46

神経内科

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	神経疾患の確実な受入と認知症への対応強化
2	診療実績	入院患者の増加と睡眠医療の強化
3	教育研修	教育体制の充実と研修医の確保

47

神経内科

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	神経疾患の確実な受入と認知症への対応強化	
	項目	目標	達成状況
1	認知症疾患医療センターの体制強化	認知症疾患医療センター患者数 950人／年	達成
2	認知症ケア加算1の取得	スタッフ配置による診療の充実と加算の算定開始	達成

認知症疾患医療センターとして、認知症認定看護師との連携を強化し、中東遠地域の認知症医療の質向上と総合入院体制加算2の取得による収益増(6千万円／年)に貢献します。

48

2 診療実績 入院患者の増加と睡眠医療の強化

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	神経疾患(脳血管疾患以外)の入院を増加	250件/年	201件/年	未達成
2	睡眠入院検査の増加	430件/年	405件/年	未達成

中東遠医療圏の神経疾患の基幹病院としての役割を果たすとともに、県内唯一の総合病院内の睡眠医療センターとして、高度な検査、診断による最良の治療を行います。

49

令和2年1月から標榜診療科名が

神経内科



脳神経内科

に変わります！

51

3 教育研修 教育体制の強化と研修医の確保

	項目	目標	達成状況
1	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化を図り研修医の確保につなげる	達成
2	内科専攻医への教育を充実	教育プログラムの確実な実施により優秀な内科医を育成する	達成

内科研修プログラムの充実に寄与し、研修医の確保に努めます。

50

中期目標

5年後の目指す姿

脳神経内科としての専門性の発揮

- ・高難度な脳神経疾患の受入体制強化
- ・認知症医療の核として地域全体の認知症対策に寄与
- ・総合病院の特長を生かした睡眠医療センターの強化

52

令和元年度 目標

1	医療の質	神経疾患の確実な受入と認知症への対応強化
2	診療実績	入院患者の増加と睡眠医療の強化
3	教育研修	教育体制の充実と研修医の確保

53

令和元年度 目標

2	診療実績	入院患者の増加と睡眠医療の強化
---	------	-----------------

	項目	目標	平成30年度実績
1	神経疾患(脳血管疾患以外)の入院を増加	250件/年	201件/年
2	睡眠入院検査の増加	430件/年	405件/年

中東遠医療圏の神経疾患の基幹病院としての役割を果たすとともに、県内唯一の総合病院内の睡眠医療センターとして、高度な検査、診断による最良の治療を行います。

55

令和元年度 目標

1	医療の質	神経疾患の確実な受入と認知症への対応強化
---	------	----------------------

	項目	目標
1	認知症疾患医療センターの体制強化	認知症疾患医療センター患者数 950人/年
2	認知症ケア加算1の堅持	スタッフ配置による診療の充実と加算の算定

認知症疾患医療センターとして、認知症認定看護師との連携を強化し、中東遠地域の認知症医療の質向上と総合入院体制加算2の取得による収益増(6千万円/年)に貢献します。

54

令和元年度 目標

3	教育研修	教育体制の強化と研修医の確保
---	------	----------------

	項目	目標
1	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化を図り研修医の確保につなげる
2	内科専攻医への教育を充実	教育プログラムの確実な実施により優秀な内科医を育成する

内科研修プログラムの充実に寄与し、研修医の確保に努めます。

56

脳神経内科としての専門性の発揮



日本神経学会はこれまで「神経内科」という標榜診療科名を使用していましたが、我々の実践している診療内容をよりよく一般の方々にご理解いただくために、「脳神経内科」という標榜診療科名に変更していくことが決定されました。

当院はCT、MRI、SPECT、脳波検査装置、終夜睡眠ポリグラフィ検査装置、PET-CTなど、脳神経内科の診療に必要な機器が揃っています。最新機器と専門的なスキルにより専門性の高い診療を行ってまいります。

57



決意

脳神経内科としての
専門性を発揮し
地域の医療水準向上を
図ります

58



令和元年度 診療科目目標発表

呼吸器内科 Respiratory Medicine

61

呼吸器内科

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	手術対象症例を含む呼吸器系疾患全般に対する診療の充実
2	診療実績	地域医療連携のさらなる推進
3	教育研修	大学との連携による教育体制強化と専攻医の獲得

63

呼吸器内科



	氏名	役職
1	牧野 靖	副医務局長 兼診療部長
2	野田 純也	医長
3	飯島 淳司	医長
4	三上 智	医長
5	藤浪 春菜	医員

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	49.3人／日	54.2人／日
入院患者数	50.7人／日	51.7人／日
肺がん入院症例数	26.8人／月	32.0人／月

62

呼吸器内科

平成30年度 目標の達成状況

1医療の質		手術対象症例を含む呼吸器系疾患全般に対する診療の充実	
	項目	目標	達成状況
1	手術対象患者への診療強化	当院での肺がん手術の実施に伴い、手術対象患者への診療を強化	良
2	大学と連携した医療の質向上への取り組み	研修医、専攻医への指導強化 カンファレンスの充実と医療安全推進	良

肺がんをはじめとする呼吸器疾患に対する診療水準の向上のため、手術対象症例へも積極的な関与を行います。

64

2 診療実績 地域医療連携のさらなる推進

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	紹介件数の増加	1,000件／年	1,197件／年	優
2	逆紹介件数の増加	800件／年	758件／年	可
3	入院患者数の維持	48人／日	54人／日	特優
4	気管支鏡など検査件数の確保	200件／年	224件／年	優

地域医療連携を推進し、がん症例の受け入れ体制を強化します。

中期目標 5年後の目指す姿

関わる人が皆、幸せな科づくり

5名以上の常勤医で呼吸器科が存在すること

教育熱心な科として存在すること

患者さんの満足度が高く、関わるコ・メディカルさんも皆幸せで、医師が長期的にいたいと思ってくれる科

3 教育研修 大学との連携による教育体制強化と専攻医の獲得

	項目	目標	達成状況
1	専攻医の獲得	1名以上の獲得	不可
2	教育体制の強化 研修医の確保	呼吸器系疾患に対する教育レベルの向上と研修医の確保	可

呼吸器系疾患に対する幅広い指導を行い、地域医療に貢献できる医師の育成に努めます。

令和元年度 目標

1	診療の質・量の確保	手術対象症例を含む呼吸器系疾患全般に対する診療の充実の推進
2	教育研修	専修医および研修医への熱い指導とスタッフ自体の知識、技術の向上
3	心と体の余裕づくり	時代に即した感覚をもてるように十分休息がとれる体制を組む

1

医療の質

手術対象症例を含む呼吸器系疾患全般に対する診療の充実の推進

	項目	目標
1	手術対象患者への診療強化継続	当院での肺がん手術の実施に伴い、手術対象患者への診療を強化 手術可能である事の周知 新患患者の確保
2	医療の質向上への取り組み	皆でスクラムを組んだ(カンファレンスおよび人数をかけて)医療で質が高い安全な医療を目指す

肺がんをはじめとする呼吸器疾患に対する診療水準の向上および確実に安全な医療となるよう取り組みます。

69

心と体の
余裕づくり

時代に即した感覚をもてるように十分休息がとれる体制を組む

	項目	目標
1	医師の充足をめざす	初期研修医、後期研修医にとって魅力的な科を目指す。
2	夏休みを確実に休み、有給休暇をとるチャレンジ	皆で仕事を補完し合える体制づくり。 合理性の高い無駄のない仕事ができるシステム作り(パスを増やしたり、セットを増やしていく方向とする)

女医さんをはじめ、いろんなタイプの医師が科にしやすいチーム作りを目指す

71

2

教育研修

専修医および研修医への熱い指導とスタッフ自体の知識、技術の向上

	項目	目標
1	専攻医および研修医への指導	研修して頂いた先生方皆にもっとも熱心だった科といわれたい。教育用スライドの作成などをおこなう。
2	医師スタッフ自体の知識、技術の向上	研修への積極的参加、学会発表、論文製作を増やすこと

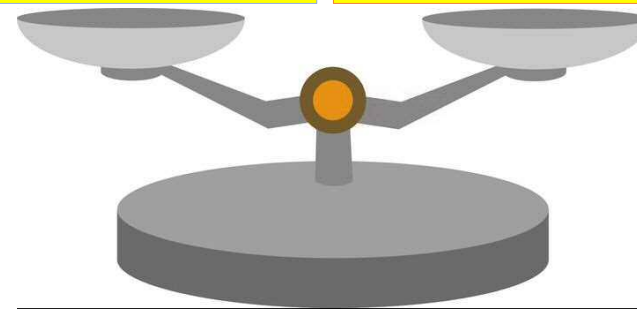
教育や研修に真摯に取り組み、科および病院自体の知識技術レベルを向上させる。

70

がむしゃら、根性論から、の脱却
ただし・・・

スタッフの人数を確保し
十分な休息をとれる
機能的で無駄のない
システム作り

あたたかく熱心といわれる
しっかりした診療
手を抜かず、常に学会などで
発信できるような仕事を行う



72

決意

あらゆる呼吸器系疾患に対する診療の質向上により地域医療に貢献します。

また、我々自身、さらに関わってくださるコ・メディカルの皆様もあらゆる意味で可能な限りHappyに仕事ができるよう努力します。

73



74



75



76



令和元年度 診療科目目標発表

消化器内科 Gastroenterology

77

消化器内科

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	連携強化による消化器系疾患への対応強化
2	診療実績	早期発見・早期対応の強化
3	教育研修	専攻医の獲得と診療体制の維持

79

消化器内科



	氏名	役職
1	高柳 正弘	統括診療部長
2	小野 幸矢	診療部長兼内視鏡センター副センター長
3	細野 功	部長
4	大島 啓嗣	部長

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	74.5人／日	75.9人／日
入院患者数	46.8人／日	50.9人／日
内視鏡総検査件数	586件／月	627件／月

78

消化器内科

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	連携強化による消化器系疾患への対応強化
---	------	---------------------

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	消化器病センターの体制強化	紹介患者の確実な受け入れ	紹介件数 1,916件／年	達成
2	ドック・検診の再検患者への対応強化	再検査の受入強化	529件／年	達成
3	C型慢性肝炎の標準治療の変更に伴う、治療可能な患者への提案強化	必要な患者全例への提案	全例提案	達成

各診療科、各部署との連携を強化し、消化器系疾患への診療を強化するとともに、紹介患者への迅速な対応を行ってまいります。

80

2

診療実績

早期発見・早期対応の強化

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	上部・下部内視鏡検査の体制強化	検査件数 7,500件／年	7,230件／年	未達成
2	紹介・逆紹介件数の維持	紹介 1,600件／年 逆紹介 1,100件／年	紹介 1,916件／年 逆紹介 1,470件／年	達成
3	ピロリ菌除菌推進と経過観察	ピロリ菌検査件数 450件／年	337件／年	未達成

内視鏡検査の件数増加を図るとともに、がん患者の早期発見・早期治療に貢献します。

中期目標

5年後の目指す姿

体制強化による地域医療への貢献

- ・診療体制の強化(医師の増員)
- ・研修機能の充実(研修医の確保)
- ・消化器系疾患に対する基幹病院としての役割を果たす！

3

教育研修

専攻医の獲得と診療体制の維持

	項目	目標	達成状況
1	常勤医師の増員	常勤医師4人体制の維持	達成
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化	未達成

研修医に対して内視鏡手技等の習熟を目指した教育を行ってまいります。

令和元年度

目標

1	医療の質	連携強化による消化器系疾患への対応強化
2	診療実績	早期発見・早期対応の強化
3	教育研修	専攻医の獲得と診療体制の維持

1

医療の質

連携強化による消化器系疾患への対応強化

	項目	目標
1	消化器病センターの体制強化	紹介患者の確実な受け入れ
2	ドック・検診の再検患者への対応強化	再検査の受入強化 550件／年
3	C型慢性肝炎の標準治療の変更に伴う、治療可能な患者への提案強化	必要な患者全例への提案

各診療科、各部署との連携を強化し、消化器系疾患への診療を強化するとともに、紹介患者への迅速な対応を行ってまいります。

3

教育研修

専攻医の獲得と診療体制の維持

	項目	目標
1	常勤医師の増員	常勤医師の増員
2	教育体制の強化と専攻医の確保	専攻医の確保

研修医に対して内視鏡手技等の習熟を目指した教育を行ってまいります。

2

診療実績

早期発見・早期対応の強化

	項目	目標	平成30年度実績
1	上部・下部内視鏡検査の体制強化	検査件数 7,500件／年	7,230件／年
2	紹介・逆紹介件数の維持	紹介 1,800件／年 逆紹介 1,400件／年	紹介 1,916件／年 逆紹介 1,470件／年
3	ピロリ菌除菌推進と経過観察	ピロリ菌検査件数 450件／年	337件／年

内視鏡検査の件数増加を図るとともに、がん患者の早期発見・早期治療に貢献します。

内視鏡検査で病変の早期発見・早期治療



当科は、内視鏡・内視鏡的超音波検査による上部消化管・下部消化管のスクリーニング・精査、腹部超音波(エコー)・CT・MRI・PET検査による肝臓・胆管胆嚢・膵臓などのスクリーニング・精査等を実施しています。

人間ドックにおける胃カメラの需要も高まっていることから、当科としては人員体制の強化を図り、病変の早期発見・早期治療に貢献してまいります。



決 意

消化器疾患への迅速
かつ適切な診療と
がんの早期発見・早期治療
に貢献します

89



91



90



92



令和元年度 診療科目目標発表

循環器内科 Cardiology

93

循環器内科



主な診療実績	H29	H30
外来患者数	74.5人/日	76.3人/日
入院患者数	54.1人/日	55.9人/日
PCI等手術件数	614件/年	702件/年

	氏名	役職
1	森川 修司	副医務局長兼循環器内科(統括)診療部長兼心血管内治療センター長
2	紅林 伸丈	診療部長兼心血管内治療センター副センター長
3	城向 裕美子	部長
4	磯部 龍夫	部長
5	大鐘 崇志	医長
6	鶴見 尚樹	医長
7	鈴木 智隆	医長
8	太田 竜右	医長
9	井上 直也	医員

94

循環器内科

中期目標

5年後の目指す姿

県内屈指の心血管診療機能の獲得

- ✓ 心臓外科医の招聘
- ✓ 循環器センターの開設

95

循環器内科

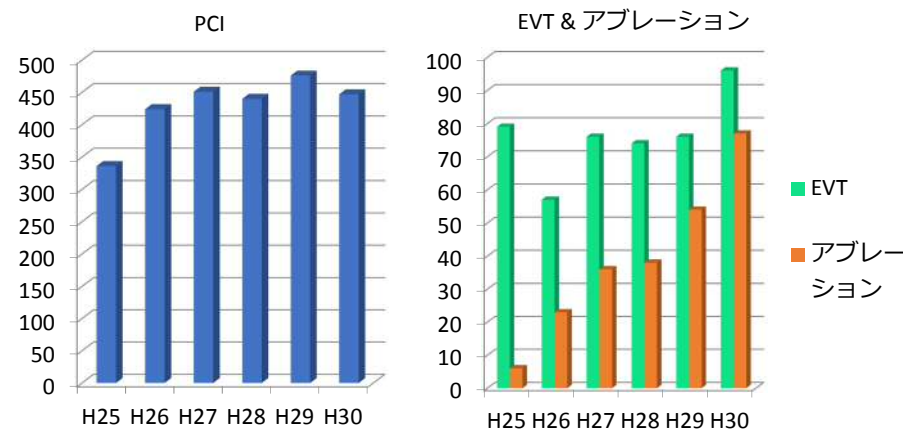
令和元年度

目標

1	医療の質	24時間365日、循環器系疾患を絶対に断らない診療体制の維持と地域連携の強化
2	診療実績	カテーテルを用いた検査・手術件数の維持
3	教育研修	充実した指導体制による研修医・後期研修医指導を強化し良医を育成する。 他のスタッフも各々モチベーション・志を高く持てるよう、経験を積んでもらう

96

PCIは十分な件数を維持
アブレーションは順調に増加



充実した指導体制による研修医・後期研修医指導を強化し良医を育成する

	項目	目標
1	教育の充実	•教育水準の向上、到達目標の明確化 •多くの症例数を経験することにより、研修医のみでなく循環器医スタッフの知識・技術の向上
2	英語の勉強会の実施	4回／月
3	学会活動への参加	研修医/後期研修医の発表を促進 (その他の当科医師全員、最低年2回程度の学会発表をしてもらっています)

研修医・後期研修医が、循環器疾患全般の診断・治療のプロセスを理解し、診断能力・手技を習得できるようにするとともに、学会活動への参加を促しサポートします。

虚血性心疾患や下肢閉塞性動脈硬化症の症例数は
県内屈指
不整脈のアブレーションも急速に増加中



当診療科は、中東遠医療圏の心血管疾患治療における中核施設として、各々モチベーションを高く持った充実したスタッフ体制のもと、年間約2,000人の患者さまを入院で受け入れています。また、急性心筋梗塞等の急性の救急患者さまに対しても24時間365日、診断・治療を迅速に行うことができます。

心臓外科の招聘に対して積極的に働きかけ、さらなる診療の質向上を目指すとともに、研修医を含めた循環器内科医師全員のスキルアップに努めてまいります。

101

決意

多職種とのチーム医療のもと、24時間365日絶対に断らず、質の高い診療体制を継続し地域医療に貢献します



102

103

104

令和元年度 診療科目目標発表



外科 Surgery

105

外科

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	外科領域手術の拡大と最先端医療への対応
2	診療実績	全身麻酔手術件数の増加と手術領域の拡大
3	教育研修	専攻医の確保

107

外科



	氏名	役職
1	宮地 正彦	企業長兼院長
2	久世 真悟	院長補佐兼外科統括診療部長
3	京兼 隆典	医務局長兼消化器外科統括診療部長兼消化器病センター長
4	河合 徹	診療部長兼手術センター副センター長
5	雄谷 慎吾	部長
6	川合 亮佑	部長
7	林 大介	医長
8	渡邊 夕樹	医長
9	茂野 紗弓	医員

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	71.4人/日	71.4人/日
入院患者数	33.5人/日	33.9人/日
手術件数	62.2件/月	67.8件/月

106

外科

平成30年度 目標の達成状況

1

医療の質

外科領域手術の拡大と最先端医療への対応

	項目	目標	達成状況
1	外科領域手術の拡大	大学との連携による呼吸器外科、小児外科手術の開始	達成
2	乳腺外科領域に対する診療強化	3Dマンモグラフィーを活用した乳がん検診の拡大と早期診断、早期治療の実施	ほぼ達成
3	腹腔鏡下手術、難治・進行消化器がん手術など消化器手術の強化	消化器病センターとの連携による症例確保	ほぼ達成
4	手術支援ロボット(ダヴィンチ)活用	胃がん・直腸がん手術の利用開始	準備中

大学との連携により、呼吸器外科手術症例は増加し、小児外科手術が開始されました。また、胃がん、直腸がん手術におけるダヴィンチの導入は現在準備中です。消化器がん、乳がん、肺がん領域への手術対応を強化し、よりレベルの高い医療(手術)を提供します。

108

2 診療実績 全身麻酔手術件数の増加と手術領域の拡大

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	全身麻酔手術件数の増加	600件／年	601件／年	達成
2	新たな分野における手術件数の増加	ダヴィンチ手術 5件／年 乳腺外科手術 70件／年 呼吸器外科手術 25件／年 小児外科手術 15件／年	ダヴィンチ手術 0件／年 乳腺外科手術 69件／年 呼吸器外科手術 28件／年 小児外科手術 8件／4ヶ月	ダヴィンチ手術は現在準備中。それ以外はほぼ達成。

全身麻酔下の手術症例を余さず受け入れ、地域医療の質向上、地域完結型の医療提供体制構築に貢献します。

109

中期目標 5年後の目指す姿

県内屈指のがん診療機能の獲得

- ・がん診療連携推進病院指定の取得（今年度10月に県が視察）。
- ・がん診療連携拠点病院を目指す。
- ・地域内完結型がん医療提供体制の構築。

111

3 教育研修 専攻医の確保

	項目	目標	達成状況
1	教育体制を強化し専攻医を確保	外科領域に関する教育指導を徹底し、外科医志望の専攻医を確保する	達成（外科専攻医：茂野医師）

消化器疾患に対する開腹・腹腔鏡手術、乳腺疾患の治療、下肢静脈瘤に対するレーザー治療、腹部救急疾患の対応など、幅広い分野での指導を行い、外科医志望の専攻医確保につなげます。

110

令和元年度 目標

1	医療の質	外科領域手術の拡大と最先端医療への対応
2	診療実績	全身麻酔手術件数の増加と手術領域の拡大
3	教育研修	専攻医の確保

112

1

医療の質

外科領域手術の拡大と最先端医療への対応

	項目	目標
1	外科領域手術の拡大	大学との連携による呼吸器外科、小児外科手術症例数増加。
2	乳腺外科領域に対する診療強化	3Dマンモグラフィーを活用した乳がん検診の拡大と症例数増加。 <u>乳がん専門医取得</u> (雄谷医師)。
3	腹腔鏡下手術、難治・進行消化器がん手術など消化器手術の強化	消化器病センターとの連携によるさらなる手術症例数の増加。
4	手術支援ロボット(ダヴィンチ)活用	胃がん・直腸がん手術の利用開始。

大学との連携により、呼吸器外科手術症例は増加し、小児外科手術が開始されました。また、胃がん、直腸がん手術におけるダヴィンチの導入は現在準備中です。消化器がん、乳がん、肺がん領域への手術対応を強化し、よりレベルの高い医療(手術)を提供します。

113

3

教育研修

専攻医の確保

	項目	目標
1	教育体制を強化し専攻医を確保	外科領域に関する教育指導を徹底し、 <u>外科医志望の専攻医を毎年1名確保する。</u>

消化器疾患に対する開腹・腹腔鏡手術、乳腺疾患の治療、下肢静脈瘤に対するレーザー治療、腹部救急疾患の対応など、幅広い分野での指導を行い、外科医志望の専攻医確保につなげます。

115

2

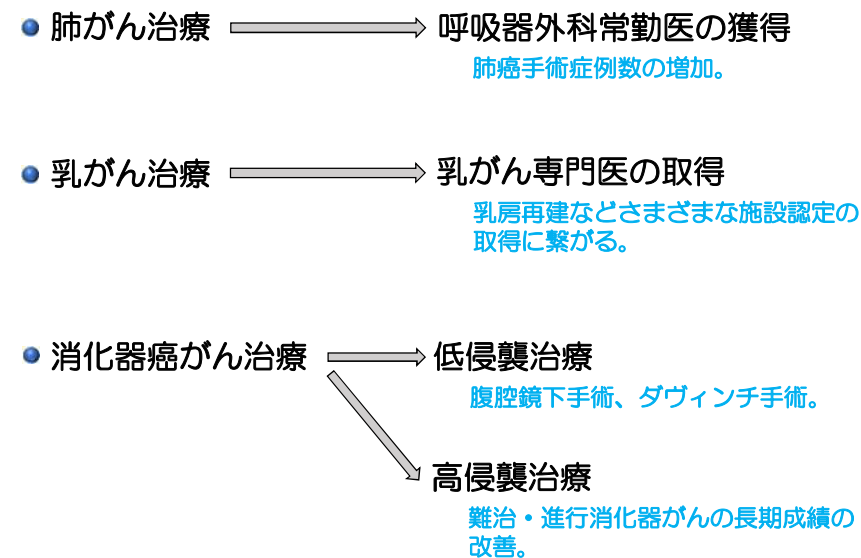
診療実績

全身麻酔手術件数の増加と手術領域の拡大

	項目	目標	平成30年度実績
1	全身麻酔手術件数の増加	650件／年	601件／年
2	新たな分野における手術件数の増加	ダヴィンチ手術 5件／年 乳腺外科手術 80件／年 呼吸器外科手術30件／年 小児外科手術 30件／年	ダヴィンチ手術 0件／年 乳腺外科手術 69件／年 呼吸器外科手術28件／年 小児外科手術 8件／4ヶ月

全身麻酔下の手術症例を余さず受け入れ、地域医療の質向上、地域完結型の医療提供体制構築に貢献します。

114



116



最先端マンモグラフィー：3Dマンモグラフィー



当院では中東圏域の病院で初めて3Dマンモグラフィーを導入しました。さらに、平成30年7月2日より当院で乳がん検診が単独で受診できるようになり、3Dマンモグラフィーによる精度の高い検診を受けることが可能です。

今年度、雄谷医師が乳癌専門医取得を目指します。

117



胃がん・直腸がん手術への手術支援ロボットda Vinciの導入



当院外科は、開院以来、胃がん、結腸がん、直腸がん手術に対し、積極的に腹腔鏡下手術を行ってきました。

現在、胃がん・直腸がん手術へのダヴィンチの新規導入を準備中です。低侵襲手術のさらなるレベルアップを目指します。

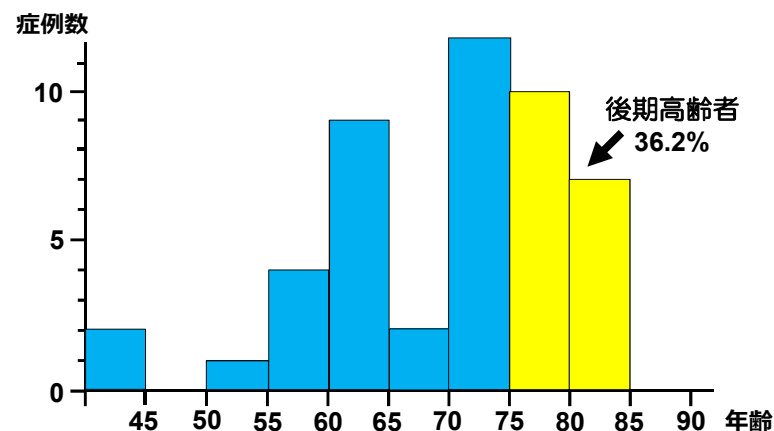
118



難治・進行消化器がんに対する長期成績改善への努力

脾頭部がん手術症例（47例）

2010.1.～2018.9.（術死なし）全例無事退院



119

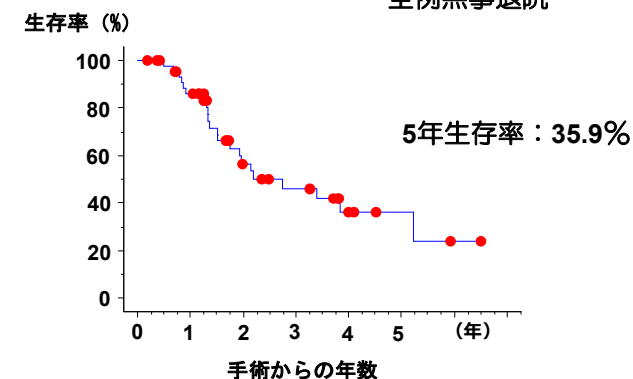


難治・進行消化器がんに対する長期成績改善への努力

脾頭部がん手術症例（47例）

2010.1.～2018.9.（術死なし）

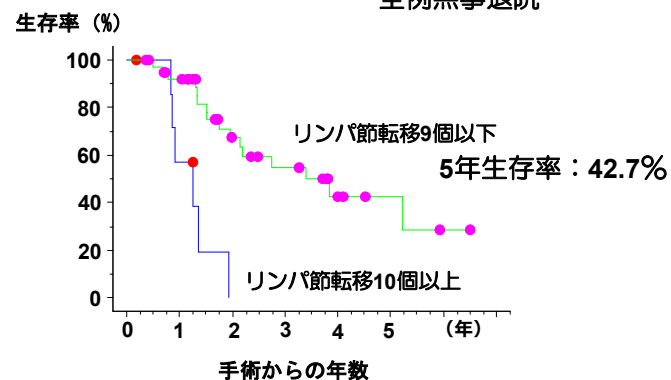
全例無事退院



16

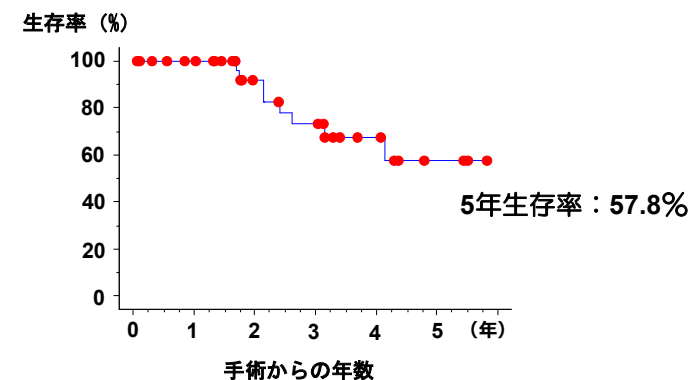


脾頭部がん手術症例（47例）
2010.1.～2018.9.（術死なし）
全例無事退院



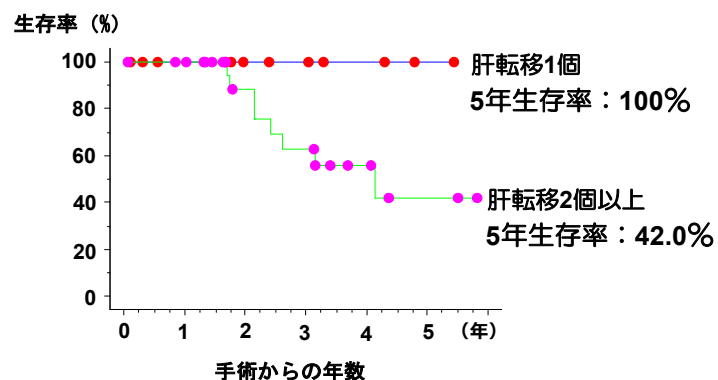
121

肝転移を伴うStageⅣ大腸がん（37例）
2013.1.～2018.9.（術死・肝不全なし）
全例無事退院

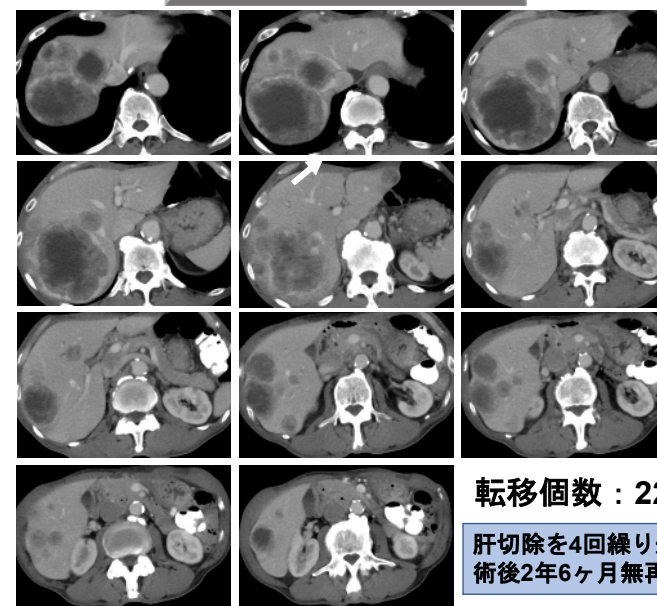


122

肝転移を伴うStageⅣ大腸がん（37例）
2013.1.～2018.9.（術死・肝不全なし）
全例無事退院



123



転移個数：22個

肝切除を4回繰り返し、
術後2年6ヶ月無再発生存中

20

決 意

消化器がん、乳がん、肺がん診療のさらなる
質向上を図り、地域内完結型がん医療提供体制
の構築に貢献します。

125



126



127



128



令和元年度 診療科目目標発表



整形外科 Orthopedic Surgery

129



整形外科

平成30年度

目標の達成状況

1	医療の質	入院、手術を中心とした診療機能の強化
2	診療実績	脊椎手術・変形性関節症手術の増加
3	教育研修	研修医の確保

131



整形外科



	氏名	役職
1	浦崎 哲哉	院長補佐兼診療部長 兼脊椎・脊髄センタ ー長
2	水野 隆文	医長
3	小杉山 裕亘	医長
4	宮入 祐一	医長
5	佐藤 俊	医長
6	山路 哲史	医長
7	坂東 皓介	医員

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	120.9人／日	101.6人／日
入院患者数	52.8人／日	53.9人／日
手術件数	91.2件／月	89.0件／月
整形外科医師数	9名	7名

130



整形外科

1	医療の質	入院、手術を中心とした 急性期診療機能の強化		
	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	地域医療機関との症例検討 会の実施	5回／年	4回／年	×
2	紹介件数の増加	2,000件／年	1,749件／年	×
3	逆紹介件数の増加	2,000件／年	1,984件／年	×

地域の医療機関との連携を強化し、急性期の患者さまに良質な医療を提供するとともに、地域医療機関等への円滑な引き継ぎにより患者さまのQOL向上に貢献します。

132

2 診療実績

脊椎手術・変形性関節症手術の受け入れ強化

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	脊椎手術件数の増加	200件／年	177件／年	×
2	変形性関節症手術件数の増加	100件／年	52件／年	××
3	新規入院患者数の増加	1,850件／年	1,213件／年	×

地域の皆様に必要とされる診療体制のさらなる強化を図ります。

133

令和元年度 目標

1	医療の質	入院、手術を中心とした診療機能の強化
2	診療実績	脊椎手術・変形性関節症手術の増加
3	教育研修	研修医の確保

135

3 教育研修

専攻医の確保

	項目	目標	達成状況
1	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化	?

外傷の初期対応等、研修医に必要なスキルの習得に貢献します。

134

令和元年度 目標

1 医療の質

入院、手術を中心とした急性期診療機能の強化

	項目	目標	平成30年度実績
1	地域医療機関との症例検討会の実施	5回／年	4回／年
2	紹介件数の増加	2,000件／年	1,749件／年
3	逆紹介件数の増加	2,000件／年	1,984件／年

地域の医療機関との連携を強化し、急性期の患者さまに良質な医療を提供するとともに、地域医療機関等への円滑な引き継ぎにより患者さまのQOL向上に貢献します。

136

2

診療実績

脊椎手術・変形性関節症手術の受け入れ強化

	項目	目標	平成30年度実績
1	脊椎手術件数の増加	200件／年	177件／年
2	変形性関節症手術件数の増加	100件／年	52件／年
3	新規入院患者数の増加	1,850件／年	1,213件／年

地域の皆様に必要とされる診療体制のさらなる強化を図ります。

137

3

教育研修

専攻医の確保

	項目	目標
1	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

外傷の初期対応等、研修医に必要なスキルの習得に貢献します。

139

2

診療実績

	項目	平成30年度実績
1	脊椎手術件数の増加	177件／年

背骨の外傷と疾患において、顕微鏡手術を主体とし、静岡で1番質の高い医療を目指します。

138

中期目標

5年後の目指す姿

整形外科専門研修基幹施設の獲得

整形外科手術1,200件／年以上の実施・継続

脊椎外科手術200件／年以上の実施・継続

整形の各専門分野の専門医獲得：脊椎、股関節、膝肩
スポーツ、リウマチ、手の外科

整形外科専攻医の育成

140

決 意

超高齢社会を乗り切る
診療体制の強化と
地域医療体制の充実に
貢献します

141

令和元年度 診療科目目標発表

脳神経外科 Neurosurgery

145

脳神経外科

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	あらゆる脳神経外科疾患に対する診療強化
2	診療実績	血管内手術を含む脳外科手術の増加
3	教育研修	研修医・専攻医への教育強化

147

脳神経外科



	氏名	役職
1	市橋 鋭一	副院長兼(統括)診療部長兼リハビリテーション科診療部長兼脳血管内治療センター長兼IVR・画像診断センター長
2	梅津 正成	診療部長
3	松尾 州佐久	部長
4	北村 拓海	医長
5	藤浪 亮太	医員

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	41.9人/日	32.9人/日
入院患者数	36.9人/日	34.7人/日
手術室内手術件数	197件/年	210件/年
血管内手術件数	82件/年	55件/年

146

脳神経外科

平成30年度 目標の達成状況

1

医療の質

あらゆる脳神経外科疾患に対する診療強化

	項目	目標	達成状況
1	すべての脳卒中患者の受け入れと救急科との連携	断らない体制	ほぼ達成
2	急性期脳卒中中のネットワーク確立	遠隔画像診断の導入	未達成
3	脳卒中ケアユニットの設置に向けた検討	密度の高い入院医療の実施	一部達成

地域の基幹病院として、24時間365日、脳神経外科疾患の患者を受け入れます。

148

2 診療実績 血管内手術を含む脳外科手術の増加

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	全身麻酔手術の増加	全麻手術 120件／年	113件／年	ほぼ達成
2	脳血管内手術の増加	血管内手術 100件／年	55件／年	未達成
3	病診連携の推進	紹介件数 1,000件／年 逆紹介件数 2,000件／年	紹介件数 937件／年 逆紹介件数 1,160件／年	ほぼ達成
4	脳ドック件数の増加	350件／年	333件／年	ほぼ達成

脳神経外科領域の基幹病院として、脳卒中予防から難度の高い手術まで、すべてに確実に対応します。

149

中期目標

5年後の目指す姿

- ・ 専攻医を含めた脳神経外科医の確保
- ・ 一次脳卒中センターの認定
- ・ 遠隔画像診断システムの導入（脳卒中ケアユニットの設置）

151

3 教育研修 研修医・専攻医への教育強化

	項目	目標	達成状況
1	他科との連携による勉強会の開催	ICU、CCUとの共同 勉強会の開催	一部達成
2	病棟カンファ、リハビリカンファ開催	1回／週	達成
3	専攻医教育の強化	技術良医の育成	達成
4	研修医教育の充実と専攻医の確保	教育体制の強化と教 育レベルの明確化	未達成

脳卒中外科指導医による充実の教育体制により、初期研修医・後期研修医のスキルアップに貢献します。

150

令和元年度

目標

1	医療の質	あらゆる脳神経外科疾患に対する診療強化
2	診療実績	血管内手術を含む脳外科手術の増加
3	教育研修	専門医の取得／研修医・専攻医への教育強化

152

1 医療の質 あらゆる脳神経外科疾患に対する診療強化

	項目	目標
1	すべての脳卒中患者の受け入れと救急科との連携	断らない体制
2	急性期脳卒中のネットワーク確立	遠隔画像診断の導入
3	脳卒中ケアユニットの設置に向けた検討	密度の高い入院医療の実施

地域の基幹病院として、24時間365日、脳神経外科疾患の患者を受け入れます。

153

3 教育研修 研修医・専攻医への教育強化

	項目	目標
1	他科との連携による勉強会の開催	I C U、C C Uとの共同勉強会の開催
2	病棟カンファ、リハビリカンファ開催	1回/週
3	専門医取得医師の増加	専門医取得
4	専攻医教育の強化	技術良医の育成
5	研修医教育の充実と専攻医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

脳卒中外科指導医による充実の教育体制により、初期研修医・後期研修医のスキルアップに貢献します。

155

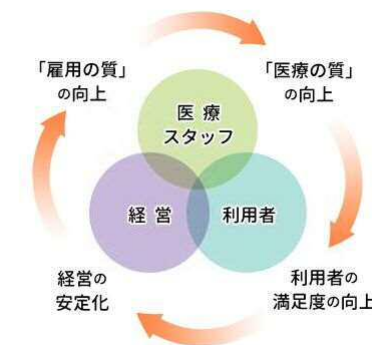
2 診療実績 血管内手術を含む脳外科手術の増加

	項目	目標	平成30年度実績
1	全身麻酔手術の増加	全麻手術 120件/年	113件/年
2	脳血管内手術の増加	血管内手術 70件/年	55件/年
3	病診連携の推進	紹介件数 1,000件/年 逆紹介件数 2,000件/年	紹介件数 937件/年 逆紹介件数 1,160件/年
4	脳ドック件数の増加	350件/年	333件/年

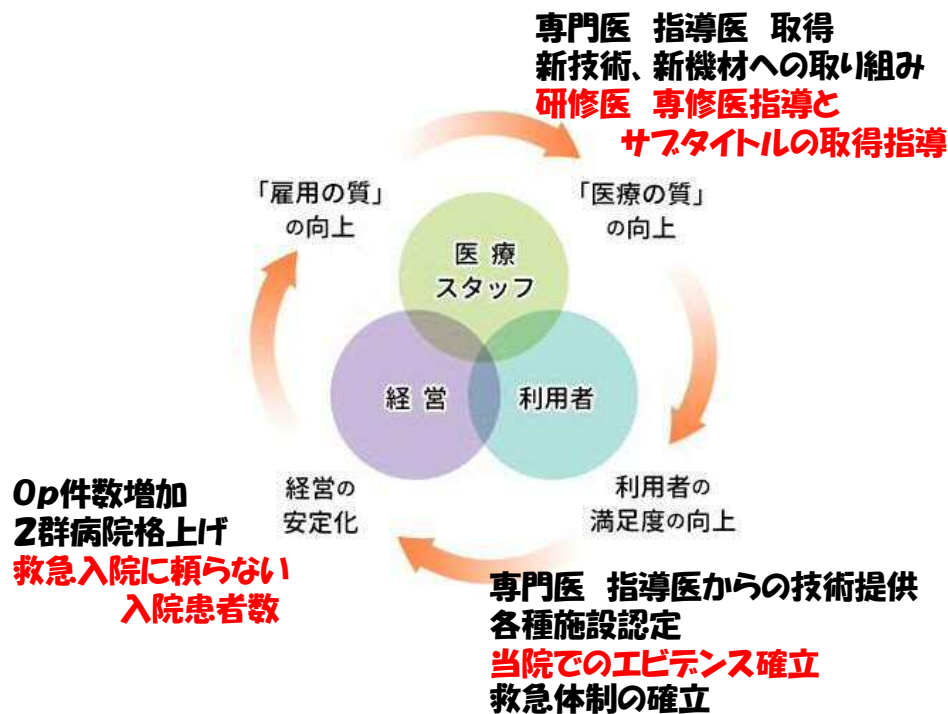
脳神経外科領域の基幹病院として、脳卒中予防から難度の高い手術まで、すべてに確実に対応します。

154

マグネット・ホスピタルを目指そう
～辞めない職場から集まる職場へ～



「マグネットホスピタル」
「患者・医師・看護師を磁石のように引きつけて放さない、魅力ある病院」



日本脳神経外科学会専門医・指導医
日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医(@ 施設認定)
日本脳卒中学会専門医(@ 施設認定)
日本脳卒中の外科学会技術指導医
日本神経内視鏡学会技術認定医
日本脳ドック学会認定脳ドック施設

現在、上記のサフタイトルは当院で取得可能

日本リハビリテーション医学会臨床専門医
日本脊髄外科学会認定医

一人の医師タイトルでは上記の維持は困難
各医師のモチベーションと意識改革、意欲が必須

158

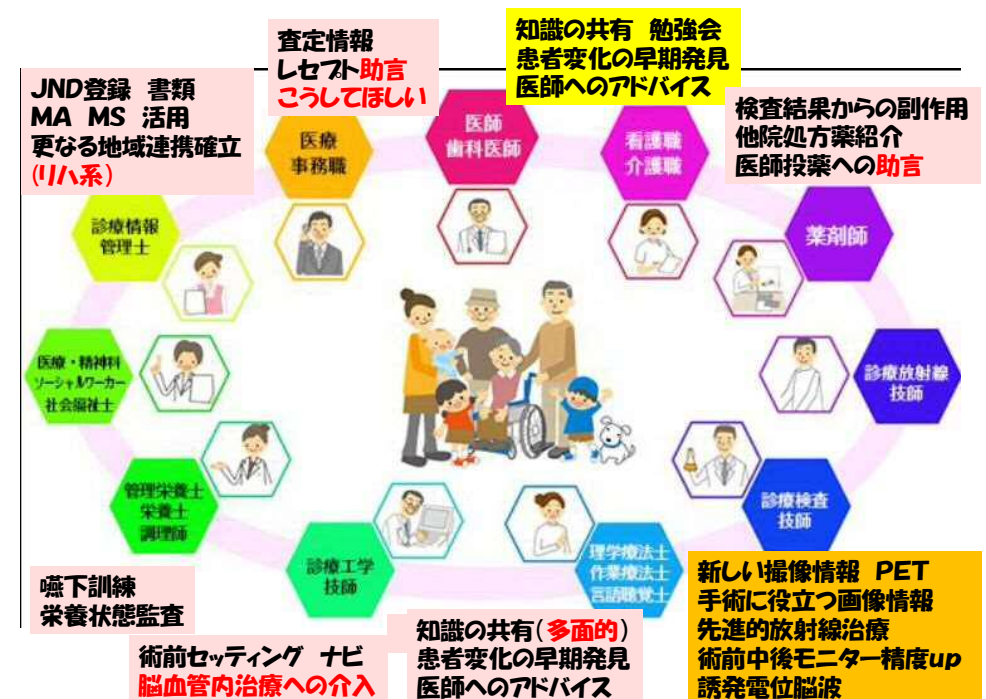
チーム医療



それぞれの部署が 関連部署に
こうしてほしい こうしたらどうか 意見 助言する できる 医療

そのためには、各部署、個人のレベルUPが必須

159



市民講座での早期発見の重要性

救急隊への主幹動脈閉塞患者の
直接当院搬送システム

スマホでCHECK OK

判定結果

例

26.9%

脳卒中であった場合の病型

脳内出血	11.2%
主幹動脈閉塞症	4.2%
その他の脳梗塞	11.3%
クモ膜下出血	0.2%
脳卒中以外	73.1%

血栓回収療法必要な患者の選出

161

Japan Urgent Stroke Triage (JUST) Score
計算機 (c) gikoha 2018
based on Uchida et al. Stroke.
2018;49:1820-1827

☐ 年齢 ≥ 75	☐ 喫煙
☐ 脳梗塞の既往	☐ 急激な発症
☐ 症状が改善した	☐ 症状が悪化傾向
☐ 頭痛	☐ 言葉が出ない
☐ けいれん	☐ 構音障害
☐ めまい	☐ 嘔吐・はきけ
☐ 収縮期血圧 ≥ 165	☐ 拡張期血圧 ≥ 95
☐ 不整脈	☐ 意識障害
☐ 共同偏視	☐ 半側空間無視
☐ 顔面神経麻痺	☐ 上肢の麻痺
☐ 下肢の麻痺	

計算

脳梗塞?	0%
大血管閉塞?	0%
脳出血?	0%
くも膜下出血?	0%
大血管閉塞・出血は脳外科のある病院へ	

脳神経外科

脳血管疾患に対するスペシャリストチーム



当院脳神経外科は、5人体制によるチーム医療のもと、24時間365日脳卒中などの診療に対応しています。

また、難易度の高い手術症例についても、後期研修医への指導を行いながら、高い技術により安全かつ質の高い治療を行っています。

個人の技術とチームの連携を同時に強化し、地域医療へのさらなる貢献を目指します。

163

脳卒中と循環器病克服5ヵ年計画の推進



TSCの施設基準

スタッフの教育と資格取得必須

- 脳血管内治療専門医3名以上)
- 脳卒中専門医2名以上
- 脳神経外科専門医2名以上

脳卒中急性期診療施設(脳卒中センター)の類型

- ①包括的脳卒中センター(comprehensivestrokecenter!CSC)
脳梗塞・脳出血・くも膜下出血の予後を改善させることが24H/7D可能な施設
- ②血栓回収脳卒中センター(thrombectomy-capablestrokecenter:TSC)
脳梗塞に対する機械的血栓回収療法が24H/7D可能な施設
- ③一次脳卒中センター(primarystrokecenter:PSC)
脳梗塞に対する『t-PA静注療法が24H/7D可能な施設

脳神経外科

決意

個人そしてチームとして
診療技術をさらに高め
脳卒中治療をはじめとする
地域医療に貢献します

164

令和元年度 診療科目目標発表



小児科 Pediatrics

165



小児科



	氏名	役職
1	岩島 寛	(統括)診療部長
2	久保田 登志子	診療部長
3	矢田 宗一郎	診療部長
4	關 圭吾	部長
5	塩澤 亮輔	部長
6	早野 聡	部長
7	鈴木 宏明	医長

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	87.4人/日	89.2人/日
入院患者数	15.0人/日	14.9人/日
アレルギー食物負荷試験実施件数	14.5件/月	17.6件/月

166



小児科

平成30年度

目標の達成状況

1	医療の質	あらゆる小児疾患に対する診療体制の充実 専門病院との連携強化
2	診療実績	紹介患者数及び入院患者数の増加 世界へ情報発信
3	教育研修	研修教育の強化と研修医の確保

167



小児科

平成30年度

目標の達成状況

1	医療の質	あらゆる小児疾患に対する診療体制の充実
---	------	---------------------

	項目	目標	達成状況
1	小児入院医療体制の強化	体制強化による小児入院医療 管理料3の取得	△
2	行政や施設との連携強化	集団健診等による地域貢献就 学支援委員会への協力	○
3	夜間休日の診療体制確保	夜間休日の日当直医の配置	○
4	発達外来の創設	週2回の外来枠の設置	○

あらゆる小児疾患より高度な小児急性期疾患
に対応できる体制を強化します。

168



紹介患者数及び入院患者数の増加
世界へ情報発信

当科からの世界に発信した論文



研修医の教育強化と研修医の確保

	項目	目標	達成状況
1	初期研修医の教育強化	月10例程度の受け持ち	
2	後期研修医の教育強化	学会での症例報告、論文作成	
3	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化	



学会発表

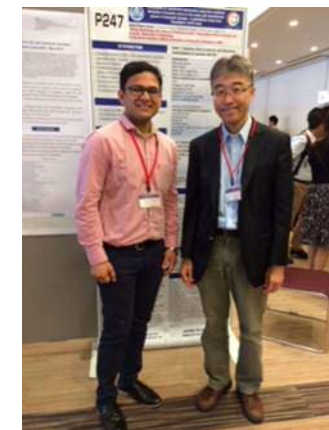


3 教育研修 学会発表



173

3 教育研修 学会発表



June 12-15, 2018 PACIFICO Yokohama, Japan
Presidents Masahiro Ishii (Kitasato University) Kei Takahashi (Toho University)
Progress and Harmony for Kawasaki Disease

174

中期目標 5年後の目指す姿

静岡県内を代表する小児科研修施設

小児科入院設備の充実

小児科病棟の設立

NICUの増床、周産母子センターの設立

175

令和元年度 目標

1	医療の質	あらゆる小児疾患に対する診療体制の充実 専門施設との連携強化
2	診療実績	紹介患者数及び入院患者数の増加 世界への情報発信
3	教育研修	研修教育の強化と研修医の確保 当院出身小児科専門医の育成

176



決 意

充実した小児診療体制を
構築し、
世界へ情報を発信できる
小児科医を育成する

177



178



179



180



令和元年度 診療科目目標発表

産婦人科 Obstetrics and Gynecology

181

産婦人科



主な診療実績	H29	H30
外来患者数	85.0人/日	82.0人/日
入院患者数	15.0人/日	27.1人/日
手術件数	402件/年	489件/年
分娩件数	547件/年	570件/年

氏名	役職	資格
村上 裕介	統括診療部長	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会 周産期（母体・胎児）暫定指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 母体保護法指定医 臨床研修指導医 医学博士
田中 晶	診療部長	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本婦人科腫瘍学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 医学博士
福地 千恵	医長	日本産科婦人科学会専門医
小池 洋	医長	日本産科婦人科学会専門医
林立弘	医長	
小田木 秋人	医長	



産婦人科

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	より専門性の高い医療
2	診療実績	手術件数の増加
3	教育研修	研修医の確保

183

産婦人科

平成30年度 目標の達成状況

1 医療の質

より専門性の高い医療

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	産科医療の充実	母体緊急搬送の100%受け入れ 超緊急帝王切開時の体制の強化	100%受け入れ シミュレーション実施	達成
2	がん診療の充実	高度な技術を要する悪性腫瘍手術から終末期医療まで取り組む		達成
3	腹腔鏡手術の確立	適応疾患の拡大（子宮摘出）	2018年10月より子宮摘出	達成

184

2 診療実績

手術件数の増加

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	手術件数の増加	420件/年	489件/年	達成
2	がん手術件数の増加	80件/年	72件/年	
3	腹腔鏡手術の確立	50件/年	55件/年	達成

185

中期目標

5年後の目指す姿

静岡県において有数の
婦人科がん治療、腹腔鏡手術の施設となる

日本婦人科腫瘍学会指定修練施設A

日本婦人科内視鏡学会修練施設

187

3 教育研修

研修医の確保

	項目	目標
1	教育体制の強化と研修医の確保	日本婦人科腫瘍学会指定修練施設の認定

日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本周産期・新生児医学会指定修練施設に加え
日本婦人科腫瘍学会指定修練施設Bに認定

186

令和元年度

目標

1	医療の質	より専門性の高い医療
2	診療実績	手術件数の増加と質の向上
3	教育研修	研修医教育の充実

188

1 医療の質

より専門性の高い医療

	項目	目標	平成30年度実績
1	産科医療の充実	母体緊急搬送の100%受け入れ 超緊急帝王切開時の体制の維持	
2	がん診療の充実	高度な技術を要する悪性腫瘍手術 から終末期医療まで取り組む	
3	腹腔鏡手術の確立	腹腔鏡下子宮全摘術の増加	子宮摘出開始

189

3 教育研修

研修医教育の充実

	項目	目標
1	教育体制の強化と研修医の確保	研修プログラムの作成

産婦人科志望の初期研修医のための研修プログラム作成

191

2 診療実績

手術件数の増加

	項目	目標	平成30年度実績
1	手術件数の増加	500件/年	489件/年
2	がん手術件数の増加	80件/年	72件/年
3	腹腔鏡手術の確立	70件/年	55件/年

190

将来的な展望

- ・ 周産期医療を充実させる
- ・ 県内における有数の婦人科がん診療施設となる
- ・ 腹腔鏡による悪性腫瘍手術を実施する

192

決 意

産科医療からがん治療まで妥協のない
診療を行ない、市民から信頼される
産婦人科を目指します。

193



194



195



196



令和元年度 診療科目目標発表

泌尿器科 Urology

197

泌尿器科



	氏名	役職
1	古瀬 洋	統括診療部長
2	松本 力哉	診療部長
3	渡邊 俊輔	医員

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	48.1人／日	50.3人／日
入院患者数	19.7人／日	19.3人／日
手術件数	450件／年	436件／年
ダヴィンチ手術件数	28件／年	30件／年

198

泌尿器科

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	手術の安全性向上と地域連携強化による診療体制の充実
2	診療実績	ダヴィンチ手術を含む手術件数の増加
3	教育研修	研修医の確保と腹腔鏡手術技術の向上

199

泌尿器科

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	手術の安全性向上と地域連携強化による診療体制の充実		
	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	ダヴィンチ手術の安全性向上	事故0件	0件	達成
2	地域連携の強化	紹介件数 920件／年 逆紹介件数 550件／年	紹介件数 851件／年 逆紹介件数 583件／年	

地域連携を強化し、ダヴィンチを含む泌尿器科領域の診療体制を充実します。

200

2 診療実績

ダヴィンチ手術を含む手術件数の増加

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	ダヴィンチ手術件数の増加	36件／年	30件／年	
2	手術件数の維持 ※手術の高度化を図り件数は維持する	450件／年	436件／年	

高度な治療・手術を必要とする患者さまの受け入れを強化します。

201

中期目標 5年後の目指す姿

中東遠地域のロボット支援手術基幹センター

腎癌・膀胱癌・前立腺癌に対するロボット支援手術の実施施設

学会認定ロボット支援手術指導医(プロクター)の養成施設

203

3 教育研修

研修医の確保と腹腔鏡手術技術の向上

	項目	目標	達成状況
1	腹腔鏡担当医の技術習得	研修参加 2回／年	達成
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化	

腹腔鏡技術認定医の取得を目指すとともに、研修医への教育・指導を行ってまいります。

202

令和元年度 目標

1	医療の質	手術の安全性向上と地域連携強化による診療体制の充実
2	診療実績	ダヴィンチ手術を含む手術件数の増加
3	教育研修	研修医の確保と腹腔鏡手術技術の向上

204

1	医療の質	手術の安全性向上と地域連携強化による診療体制の充実	
	項目	目標	平成30年度実績
1	ダヴィンチ手術の安全性向上	事故0件	0件
2	地域連携の強化	紹介件数 920件／年 逆紹介件数 550件／年	紹介件数 851件／年 逆紹介件数 583件／年

地域連携を強化し、ダヴィンチを含む泌尿器科領域の診療体制を充実します。

205

3	教育研修	研修医の確保と腹腔鏡手術技術の向上	
	項目	目標	
1	腹腔鏡担当医の技術習得	研修参加 2回／年	
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化	

腹腔鏡技術認定医の取得を目指すとともに、研修医への教育・指導を行ってまいります。

207

2	診療実績	ダヴィンチ手術を含む手術件数の増加	
	項目	目標	平成30年度実績
1	ダヴィンチ手術件数の増加	36件／年	30件／年
2	手術件数の維持 ※手術の高度化を図り件数は維持する	450件／年	436件／年

高度な治療・手術を必要とする患者さまの受け入れを強化します。

206

ダヴィンチ手術のさらなる拡大



平成29年2月の導入から2年が経過し、平成29年度は28件、30年度は30件のダヴィンチ前立腺全摘除術を実施しました。

当院泌尿器科医師のレベルも着実に向上し、多くの患者様に対し安全に実施できるようになりました。

令和元年度は36件の前立腺手術の実施を目指すとともに、ダヴィンチ膀胱全摘除術を新規術式として導入します。

208

決 意

ダヴィンチのさらなる
活用と泌尿器科領域の
診療技術を向上させ
地域医療に貢献します

209



210



211



212



令和元年度 診療科目目標発表



皮膚科 Dermatology

213

皮膚科

平成30年度

目標の達成状況

1. 医療の質

- 新規治療に積極的に取り組んだ(悪性黒色腫、尋常性乾癬)。
- 他科との連携を積極的に行った。

2. 診療実績

- 手術等の件数増加 705件／年
- 逆紹介件数の増加 305件／年
- 紹介件数の増加 987件／年

3. 教育研修

- 褥瘡勉強会(職員向け):1回／年
- 研修医への教育の充実

215

皮膚科



	氏名	役職
1	福地 健祐	医長(診療科長)
2	富田 和貴	医員
3	森本 広樹	医員

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	64.5人／日	61.3人／日
入院患者数	7.4人／月	9.1人／月
生検・手術件数	60.4件／月	58.5件／月

214

皮膚科

中期目標

5年後の目指す姿

皮膚外科の充実

全身麻酔手術を10件／年以上の実施

脂肪腫に対する適切な検査・治療を行う。

広範囲の植皮術、皮弁形成術を行う。

216

令和元年度 目標

1	医療の質	皮膚科診療の充実
2	診療実績	入院患者数と手術件数の維持
3	教育研修	褥瘡に対する診療の質向上と意識啓発

217

令和元年度 目標

2 診療実績 入院患者数と手術件数の維持

	項目	目標	平成30年度実績
1	入院患者数の維持	9.0人／月	9.1人／月
2	手術等の件数の維持	700件／年	705件／年

地域の基幹病院として、紹介・逆紹介の推進を図り、開業医・浜松医科大学との連携を強化します。

219

令和元年度 目標

1 医療の質 皮膚科診療の充実

	項目	目標
1	皮膚科診療の習熟	幅広い疾患の治療に精通する。
2	他科と連携して手術を行う	当院で扱える疾患の種類を増やす

皮膚疾患を有する患者に対する診療体制の強化を図ります。

218

令和元年度 目標

3 教育研修 褥瘡に対する診療の質向上と意識啓発

	項目	目標
1	褥瘡勉強会(職員向け)	1回／年
2	研修医に対する教育体制の強化	研修医への教育の充実

職員に対する褥瘡研修による意識向上を図り、患者様のADL向上に貢献します。

220



決 意

日々の診療と並行して研鑽を積み、
それを中東遠地区の患者様に
還元してまいります。

221



223



222



224



令和元年度 診療科目目標発表



眼科 Ophthalmology

225



眼科



	氏名	役職
1	土屋 陽子	診療部長
2	永田 祐衣	医長
3	遠藤 智己	医員
4	山田 亮佑	医員

看護師	
栗田 永巳子	長谷 博美

視能訓練士	
小山 香	守山 真弓
安間 光子	畑中 由美子

メディカルエイド	
井口 博美	安達 ふじ子

MS	
戸塚 恵	池田 知代恵

226



眼科

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	診療の効率化と質の向上
2	診療実績	紹介状患者の受け入れ強化
3	教育研修	研修医の確保と教育の充実

227



眼科

平成30年度 目標の達成状況

1 医療の質

診療の効率化と質の向上

	項目	目標	達成状況
1	診療の質の向上	医師、視能訓練士のスキル向上 新しい治療法を導入し、患者さまのニーズに合うような選択肢を増やす	達成☆ ・ 低侵襲緑内障手術を開始した ・ 先進医療施設に認定されたことにより、多焦点レンズの増加につながった
2	外来業務の効率化	開業医と連携を取り、適切な外来患者数を維持することで、受け入れ体制を整える 手術件数の維持する	達成☆ ・ 症状の落ち着いた方は逆紹介を行い、早めの処置が必要な方の対応を行えるようにした ・ 手術件数を維持できた

228

2 診療実績 紹介状患者の受け入れ強化

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	紹介件数の維持	840件／年	919件／年	達成
2	逆紹介件数の維持	600件／年	585件／年	
3	白内障手術の維持	昨年度の件数維持(700件)	740件／年	達成
4	緑内障手術の維持	昨年度の件数維持(5件)	5件／年	達成

外来業務の効率化を図り、患者さまの受け入れ体制を強化します

229

3 教育研修 研修医の確保と教育の充実

	項目	目標	達成状況
1	カンファレンス(勉強会)の開催	毎朝 Webカンファ1回／年	達成
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化	達成

前眼部から眼底疾患まで、幅広く診療のできる眼科医を育成するよう指導・教育します

231

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	89.8人／日	81.0人／日
入院患者数	6.8人／日	6.3人／日
手術件数		
白内障	697件	740件
緑内障	4件	5件
斜視	8件	9件
翼状片切除	13件	13件
眼瞼下垂手術	15件	32件
硝子体注射	153件	290件
レーザー治療(糖尿病網膜症など)	111件	74件
後発白内障レーザー治療	65件	43件

230

令和元年度 目標

1	医療の質	診療の効率化と質の向上
2	診療実績	紹介状患者の受け入れ強化
3	教育研修	研修医の確保と教育の充実

232

1

医療の質

診療の効率化と質の向上

	項目	目標
1	白内障手術結果の向上	乱視矯正レンズや多焦点レンズなどの多機能眼内レンズが増加しています。術後結果を良好にするために、より検査精度を高め、術後誤差を少なくするよう、知識の向上に努めます
2	低侵襲緑内障手術の増加	低侵襲緑内障手術を導入し、良好な眼圧下降が得られています。早期に低侵襲な手術介入することにより、長期的に視機能維持につなげます

233

3

教育研修

研修医の確保と教育の充実

	項目	目標
1	カンファレンス（勉強会）の開催	毎朝 Webカンファ 1回/年
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

前眼部から眼底疾患まで、幅広く診療のできる眼科医を育成
するよう指導・教育します

235

2

診療実績

紹介状患者の受け入れ強化

	項目	目標	昨年度の実績
1	紹介件数の維持	840件／年	919件／年
2	逆紹介件数の維持	600件／年	585件／年
3	白内障手術の維持	昨年度の件数維持	740件／年
4	緑内障手術の維持	昨年度の件数維持	5件／年

234

眼科

中期目標

5年後の目指す姿

継続と進化

236



人生100年時代の視機能の維持を目指す

超高齢化社会がすすみ、「見えるようになる」だけの医療から、長期間にわたり「よりよく見える」という、生活の質を上げる面での医療の在り方も大事になってきています。

当院では、白内障、緑内障などの内眼疾患から、眼瞼下垂や斜視などの外眼部疾患まで手術を行っております。またの弱視治療など、小児眼科領域にも力をいれており、幅広い疾患に対して治療を行っております。

237



239



決意

中東遠地域の基幹病院として、
地域の先生方と連携を取り、
医療の質向上に努めていきたい
と思います

238



240



令和元年度 診療科目目標発表

耳鼻いんこう科 Otorhinolaryngology

241

耳鼻いんこう科

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	47.9人／日	50.3人／月
入院患者数	10.3人／日	10.1人／月
手術件数	20.6件／月	21.7件／月

243

耳鼻いんこう科



氏名	役職
臼井 広明	副医務局長 兼診療部長
疋田 由美子	医長
小黑 美樹	医長



氏名	役職
近藤 玄樹	医長(聖隷浜 松病院から赴 任)



氏名	役職
細川 誠二	浜松医大耳鼻 咽喉科准教授 (非常勤)

242

耳鼻いんこう科

術式	年度	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度
耳					
鼓室形成術		1	0	3	1
鼓膜形成術		0	1	1	2
鼓膜チューブ挿入術		9	4	10	9
顔面神経減荷術		1	0	1	0
外耳道異物摘出術		1	0	1	1
先天性耳瘻管摘出術		8	4	6	12
鼻					
内視鏡下鼻副鼻腔手術 (+鼻中隔矯正術)		26	31	35	41
鼻中隔矯正術(+鼻甲介 切除術)		10	12	8	4
鼻腔良性腫瘍切除術		4	6	2	6
鼻腔悪性腫瘍切除術		1	0	0	0
C-L法(上顎洞根治手術)		4	4	3	2
鼻骨骨折整復術		16	17	15	11
鼻甲介レーザー焼灼		8	3	10	4
口腔咽喉頭					
扁桃摘出術		31	27	36	25
扁桃摘出術+アデノイド 切除術		33	37	14	18
アデノイド切除術		8	5	2	6
UPPP		2	1	1	2
術後出血止血術		1	3	3	4
舌口腔良性腫瘍		3	5	6	5
唾石症		3	1	2	3
咽頭喉頭異物摘出術		2	2	1	2
喉頭微細手術		22	29	28	29
頸部					
頸部郭清術		1	2	3	1
顎下腺良性腫瘍摘出術		7	7	7	4
耳下腺良性腫瘍手術		7	8	6	11
耳下腺悪性腫瘍手術		1	0	0	0
甲状腺良性腫瘍手術		12	10	6	10
甲状腺悪性腫瘍手術		17	10	11	13
副甲状腺腫瘍手術		0	2	2	3
リンパ節生検		15	16	9	15
頸部嚢胞摘出術		4	0	2	3
その他の頸部腫瘍摘出術		6	2	2	3
気管切開術		8	7	8	4
その他		0	5	3	6
合計		272	261	247	260

244

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	副鼻腔ナビゲーション手術の強化
2	診療実績	手術及びがん患者の受け入れ強化
3	教育研修	専攻医の確保

245

平成30年度 目標の達成状況

2	診療実績	手術及びがん患者の受け入れ強化		
	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	手術件数の増加	240件／年	260件／年	達成

経鼻内視鏡手術やがん患者への治療など、より高難度な症例の受け入れを強化します。

また、頭頸部がん化学療法、放射線療法患者の受け入れも強化します。

247

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	副鼻腔ナビゲーション手術の強化		
	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	ナビゲーション手術を利用した安全性の確保	60件／年	41件／年	未達成

地域連携を強化し、より高度な管理を必要とする症例について、積極的に受け入れます。

246

平成30年度 目標の達成状況

3 教育研修		専攻医の確保	
	項目	目標	達成状況
1	大学と連携した教育指導の強化	専門医の育成	達成
2	教育体制の強化と研修医の確保	専攻医の確保	未達成

耳鼻科領域から頭頸部腫瘍領域まで幅広く指導を行います。

248

中期目標

5年後の目指す姿

頭頸部がん診療の充実

1) 頭頸部がん患者の獲得

2) 外来化学療法の増加

3) 放射線治療の増加

249

令和元年度

目標

1 医療の質

副鼻腔ナビゲーション手術の強化

	項目	目標	平成30年度実績
1	ナビゲーションを利用した低侵襲・根治的な手術の拡大	60件／年	41件／年

内視鏡下上顎内側部分切除術変法(EMMM)等、新たな術式を取り入れ、更なる副鼻腔ナビゲーション手術の適応拡大に努めます。

251

令和元年度

目標

1 医療の質

副鼻腔ナビゲーション手術の強化

2 診療実績

手術及びがん患者の受け入れ強化

3 教育研修

専攻医の確保

250

令和元年度

目標

2 診療実績

手術及びがん患者の受け入れ強化

	項目	目標	平成30年度実績
1	手術件数の増加	280件／年	260件／年

副鼻腔ナビゲーション手術だけでなく、甲状腺癌のような悪性腫瘍の手術も積極的に行います。また、頭頸部がん化学療法、放射線療法患者の受け入れも強化します。

252

3 教育研修

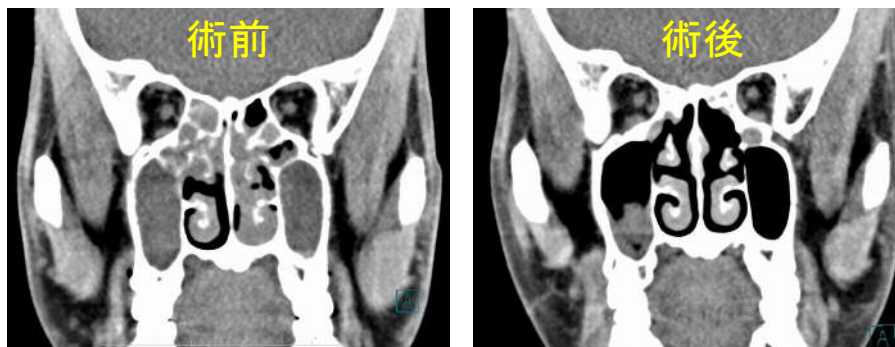
専攻医の確保

	項目	目標
1	大学と連携した教育指導の強化	専門医の育成
2	教育体制の強化と研修医の確保	専攻医の確保

耳鼻科領域から頭頸部腫瘍領域まで幅広く指導を行います。耳鼻いんこう科を志す研修医を確保するだけでなく、当院で教育を継続できる教育体制を構築します。

253

好酸球性副鼻腔炎の1例



好酸球性副鼻腔炎は難治性の副鼻腔炎です。内服治療のみでは改善が難しく、手術治療が有効な手段です。



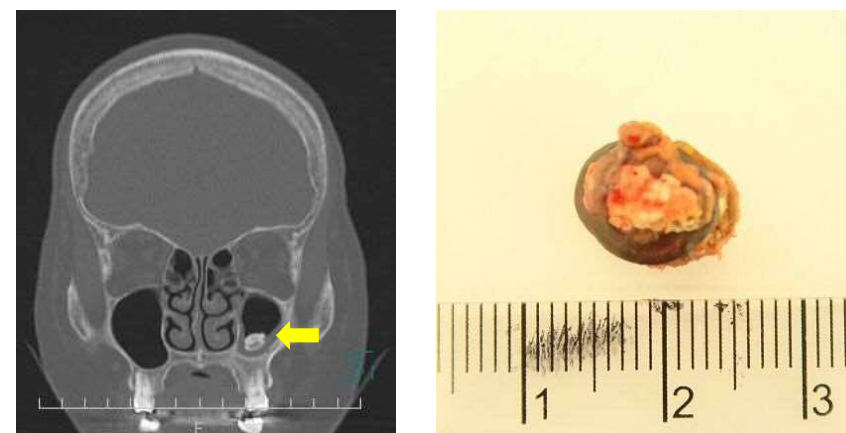
ナビゲーションガイド下鼻内鼻副鼻腔内視鏡手術



耳鼻いんこう科では、副鼻腔疾患治療に経鼻内視鏡手術を行っていますが、ナビゲーションシステム導入により、さらに安全・安心な手術を患者様に提供できます。慢性副鼻腔炎、好酸球性副鼻腔炎、副鼻腔真菌症、術後性上顎洞嚢胞、副鼻腔乳頭腫といった様々な鼻副鼻腔疾患が、鼻腔からの操作のみで手術が可能です。

254

上顎洞真菌症の1例



このような副鼻腔(上顎洞内)の異物を、歯肉を切ることなく鼻の中から内視鏡を用いて摘出できます。摘出した組織は真菌塊でした。

256

決 意

内視鏡手術やがん診療の
充実により
地域医療に貢献します

257



258



259



260



令和元年度 診療科目目標発表

腫瘍放射線科 Radiation Oncology

261

腫瘍放射線科

がん診療を支える放射線治療



	氏名	役職
1	一戸 建志	診療部長

262

腫瘍放射線科

平成30年度 目標の達成状況

1	医療の質	照射方法の適切な選択と精度の向上
2	診療実績	照射患者数の増加
3	教育研修	教育体制の強化と研修医の確保

263

腫瘍放射線科

1 医療の質 照射方法の適切な選択と精度の向上

平成30年度 目標の達成状況

	項目	達成状況
1	患者ごとに最適な照射方法の選択	○(IMRT 多用などでおおよそ達成)
2	放射線治療装置の精度の維持管理	△(患者固定精度にやや難あり)
3	外部講師を招いた照射PRを行う	×(実績なし)→次年度より項目変更

次年度目標

放射線治療専任の技師と協力し、精度の向上に引き続き努めてまいります。

264

2 診療実績

照射患者数の増加

平成30年度 目標の達成状況

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	照射患者数の増加(根治・姑息)	240人／年	281人／年	○(達成)
2	高精度照射(定位・IMRT)件数の増加	90人／年	101人／年	○(達成)

次年度目標

患者数、IMRTを含めた高精度照射件数のさらなる増加を目指します。

265

決意

確かな技術と経験により
地域のがん患者さまに
最適な放射線治療を
提供します

267

3 教育研修

教育体制の強化と研修医の確保

平成30年度 目標の達成状況

	項目	達成状況
1	教育体制の強化	△(浜松医大の専門研修プログラムに参加)
2	研修医の確保	×(未達成)

次年度目標

浜松医大との連携を密にし、治療体制の強化に努めます。

266

268

令和元年度 診療科目目標発表



麻酔科 Anesthesiology

269



麻酔科



	氏名	役職
★ 1	山本 洋子	副院長兼統括診療部長兼手術センター長
★ 2	内山 智浩	副医務局長兼診療部長
★ 3	平出 恵理	部長
★ 4	秋永 泰嗣	部長
5	岩田 紘樹	医長
6	山本 史子	医員
★ 7	鈴木 みどり	非常勤医師
8	小口 鉄平	非常勤医師

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	16.7人/日	17.7人/日
手術件数	375.3件/月	393.2件/月
全身麻酔手術件数	158.3件/月	171.8件/月

★日本麻酔科学会指導医

270



麻酔科

平成30年度

目標の達成状況 総括

1 麻酔業務	2 手術センターの運営	3 ペインクリニック
--------	-------------	------------

全手術件数4729件(+215件)
麻酔科管理症例2326件(+161件)
小児外科手術も始まり、呼吸器外科、腹腔鏡下手術も増加している。

脳死下臓器摘出術が3例行われた。
シミュレーションを行う前に発生したが、大きな混乱なく行うことができた。このうち2例は平日明け方に行われたため、麻酔科医への負担も、手術センター運営上も負担の大きい手術であった。

内山医師が日本ペインクリニック学会の専門医に合格した

271



麻酔科

平成30年度 目標の達成状況

1 麻酔業務

日々の症例を大切に

	項目	目標	達成状況
1	麻酔困難症例に対する適切な対応	術前外来の充実と毎日のカンファランスの確実な実践	◎
2	教育体制の強化	月1回の研修会の開催	◎
3	人員確保	新しい分野の開拓 選択ポリクリの学生、初期研修医に熱意を持って教える	○
4	新しい手術に対応	呼吸器外科、小児外科等への対応	◎
5	学会発表・論文作成	科で年に論文・学会発表を1つずつ	◎

272

2 手術センターの運営 チーム医療の要に

	項目	目標	平成30年度実績	達成状況
1	手術件数の確保	手術件数 200件／年 麻酔管理件数 100件／年 増やす	手術件数 +215件／年 (計4,729件) 麻酔科管理症例数 +161件／年 (計2,236件)	◎
2	手術室枠の組み換え・効率化	稼働率の向上	午前中の手術増加	○
3	手術センターの安全性の向上	3b以上の事故「0」	3例	×

273



- 1 麻酔業務 2 手術センターの運営 3 ペインクリニック

基本路線は継続

275

3 ペインクリニック 新しい分野への開拓

	項目	目標	達成状況
1	難易度の高い神経ブロック・侵襲の高い治療へ挑戦	・超音波診断装置、X線透視装置、CT撮影装置を用いたブロックを行います。 ・整形外科、放射線科など他の科と共同して難易度の高い神経ブロックや侵襲度の高い治療を行います。	○
2	緩和医療への参加	内山医師を週1回緩和ケア外来・緩和ケアチームへ派遣	◎
3	疼痛カンファランス	整形外科脊椎班と月1回開催	×

274

1 麻酔業務 日々の症例を大切に

	項目	目標
1	麻酔困難症例に対する適切な対応	術前外来の充実と毎日のカンファランスの確実な実践
2	教育体制の強化	月1回の研修会の開催
3	人員確保	大学医局と交渉 選択ポリクリの学生、初期研修医に熱意を持って教える
4	新しい手術に対応	腹腔鏡下膀胱全摘術など
5	学会発表・論文作成	科で年に論文・学会発表を1つずつ

276

2 手術センターの運営 チーム医療の要に

	項目	目標
1	手術件数の確保	手術件数 4,800件／年目標 麻酔管理件数100件／年増やす
2	手術室枠の組み換え・効率化	稼働率の向上
3	手術センターの安全性の向上	3b以上の事故「0」
4	老朽化した機器の整備	両病院からの持ち寄りの機械の老朽化を計画的に整備する

277

教育 麻酔科からの院内外へ情報発信

	項目	目標
1	救急蘇生の講習会	院内 ICLSディレクター BLSインストラクター
2★	院内教育へ発信 麻酔科ハンズ・オンセミナーの開催	研修医ばかりでなく 上級医へも 中心静脈カテーテル挿入法 ビデオ喉頭鏡による気管挿管
3	院外へ発信 ～医療市民講座への参加	11月16日(土) 袋井市 「麻酔のおはなし」
4	麻酔科専門医のための科内の情報共有	麻酔科危機管理マニュアルシート の作成

279

3 ペインクリニック 新しい分野への開拓

	項目	目標
1	難易度の高い神経ブロック・侵襲の高い治療へ挑戦	・高周波熱凝固装置・超音波診断装置、X線透視装置、CT撮影装置を用いたブロックを行います。 ・整形外科、放射線科など他の科と共同して難易度の高い神経ブロックや侵襲度の高い治療を行います。
2	緩和医療への参加	内山医師を週1回緩和ケア外来・緩和ケアチームへ派遣
3	疼痛カンファランス	整形外科脊椎班と月1回開催
4	日本ペインクリニック学会 専門医指定研修施設へ	

278

中期目標 5年後の目指す姿

**DPC II群病院であり続けるならば、
常勤麻酔科医10人が必要**

DPC II群を維持するのに手術件数の増加は必須であるが、増加する手術に365日24時間対応するためには**最低10人の麻酔科医が安定的に必要である。**

静岡県全体で麻酔科の専攻医希望は、昨年は4人、今年は8人であった。当院ばかりでなく静岡県全体で麻酔科医の獲得に努力しなければ静岡県の手術は施行不能となる。
色々な形で麻酔科の魅力を発信して麻酔科医の獲得に努める。



決 意

引き続き“手術を受けるなら中東遠”
安心して手術を受けられる体制づくりに努めます

静岡県地域がん治療連携推進病院
緩和医療でも力を発揮します

今年度は特に教育の側面から麻酔科の情報を発信
して、院内外に麻酔科の存在をアピールします

令和元年度 診療科目目標発表

歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery

285

歯科口腔外科

令和元年 口腔外科の掲げる2大テーマ

- ・心の通う医療を目指し、患者さんを笑顔で帰す
- ・そのために医療を行う側が、まず笑顔になること目指す

287

歯科口腔外科



	氏名	役職
1	夫 才成	診療部長
2	安藤 友二	部長
3	若山 博隆	医長
4	金子 順哉	研修医
5	荻須 宏太	非常勤医

主な診療実績	H29	H30
外来患者数	50.2人／日	45.0人／日
入院患者数	4.7人／日	4.3人／日
入院手術件数	40件／月	40件／月

286

歯科口腔外科

背景 1

- ・自分の患者体験（救急受診、入院、手術）
- ・不安を抱える方に寄り添い、患者さんを笑顔に導ける診療体制を作りたい
- ・まず医療者が笑顔になれることが必要
- ・医療者が「心のゆとり」を持てることが不可欠

288

背景 2

- ・現状、「心のゆとり」を**持ちにくい**
- ・その**原因**を考えてみると、次のような状況がある

289

令和元年度

目標

1	医療の質	初診予約1ヶ月待ちを解消する 周術期口腔ケアの充実
2	診療実績	初診待ちの短縮、初診患者数の増加 摂食・嚥下チームへの参加
3	教育研修	研修医、新人歯科衛生士の教育

291

医療者が「心のゆとり」を失くす原因

- ・初診予約が**1ヶ月待ち**
⇒待ちきれない予約外受診が増える
- ・患者数が増え、業務が終わらない
⇒カルテ記載、返書が**当日夜**や**翌日**に残る
- ・マンパワー不足 歯科医師数 3 人 （磐田: **4 人**）
歯科衛生士 5 人 （磐田: **9 人**）
- ・まだまだあるが、、、先ずは！

290

令和元年度

目標

1

医療の質

初診予約1ヶ月待ちを解消する
周術期口腔ケアの充実

	項目	目標
1	初診枠を増やせる診療体制をつくる	研修医の2年目継続と初診参加 MS導入
2	周術期口腔ケアの充実	研修医の2年目継続と治療参加 新人歯科衛生士募集→そのため の就職説明会、見学、短期雇用
3	診療効率UP	パンフレット作成やデジタル化

初診待ちの少ない診療体制をつくり
円滑な地域連携に貢献します。

292

2 診療実績 初診待ちの短縮、初診患者数の増加
摂食・嚥下チームへの参加

	項目	目標	平成30年度実績
1	初診待ち	およそ2週間	およそ1ヶ月
2	初診患者数	2160人	小児科 2515人(10人) 口腔外科 2005人(3人) 総合内科 1217人(3人) 消化器内科 1162人(5人) 整形外科 960人(10人)
3	摂食・嚥下チームへの参加	・摂食・嚥下ラウンドを実施 ・嚥下内視鏡により嚥下機能を評価	なし

初診患者数を増やし、地域の医療需要に応えられる診療体制をつくります。

293

中・長期目標 5年後+αの目指す姿

オーラルフレイルを防ぐ中核病院の機能を獲得

「歯を抜く」よりも「歯を残す」手術が多い未来

インプラント研修施設認定、インプラントセンター開設

→ 地域にインプラント専門医を養成する

摂食・嚥下チームの地域連携

定期的な市民講座・市民との交流・健康づくりカフェなど、アクティブシニアを目指す街づくりに貢献

定年後フリーランス歯科衛生士の地域医療構想での活躍

295

3 教育研修 研修医、新人歯科衛生士の教育

	項目	目標
1	研修医の教育	2年目に向けて、軽症者に対し自立して診療ができる
2	新人歯科衛生士の教育	診療ポリシーに共感してもらえる歯科衛生士の募集と教育
3	研修医の資格取得に向けた取り組み	3年後に口腔外科学会認定医の取得に向けた準備

若手歯科医師、新人歯科衛生士を教育し
診療体制の強化を図ります

294

総合病院の口腔外科として 1

医療職は

目の前の患者さんに対して、専門性を背景に言葉で不安を取り除き、技術で症状を改善し

「強いやり甲斐」と「ささやかな誇り」を感じれる価値ある職種のひとつ

296

総合病院の口腔外科として 2

しかし現状は、ちょっとしたすれ違いから
患者さんと医療者の双方にストレスがかかり

患者さんと医療者の間に
時に「憎しみ」が生まれかねない

297

決意

初診待ちを解消し
円滑な地域連携を実現する

患者さんの不安や焦燥に共感し
患者さんを笑顔で帰す

そのために、まずは自分達が笑顔になる

299

総合病院の口腔外科として 3

患者さんと医療者の
残念な悪循環から抜け出し

医療者が「心のゆとり」を取り戻し
患者さんに「慈しみ」をもって対話できる診療体制をつくり

患者さんとの間に、好循環を生み出せるよう
模索していきたい

298

300

令和元年度 診療科目目標発表

救急科

Emergency
and
Critical Care Medicine

301

救急科

令和元年度

目標

1. 地域医療への貢献

救急医療をオール中東遠で支える
DPC特定病院群にジャンプアップする
地域医療連携を強化し地域包括ケアシステムの構築に貢献する
経常収支の黒字化を達成し持続可能な病院運営を創造する

2. 誇りと生きがいを持てる病院の創造

県内屈指の急性期病院として中東遠ブランドを醸成する

3. 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

専攻医（3～5年目の医師）を20名以上にする
全ての職種において教育プログラムを作成・実践する
救急科領域の専門医研修における基幹施設になる

303

救急科



	氏名	役職
1	松島 暁	部長(診療科長) 兼 救命救急センター長 兼 ICU・CCUセンター長
2	浅田 馨	部長
3	大林 正和	医長

主な診療実績	平成29年度	平成30年度
救命救急センター受診者数	21,861人	20,550人
救急車搬送件数	6,107台	6,228台

302

救急科

中期目標

5年後の目指す姿

1. 地域医療への貢献

救急車応需率の維持
目標手術件数の増加に対応した主治医の負担軽減
「超」急性期リハビリテーション
加算病床の適正利用

2. 誇りと生きがいを持てる病院の創造

救急科の診療・活動の広報

3. 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

専攻医の獲得
救急科指導医資格の取得

304

中期目標

5年後の目指す姿

1. 地域医療への貢献

項目	目標
救急車応需率	96%以上
手術件数増加に対応した 主治医の負担軽減	術後管理件数の 増加
「超」急性期リハビリテーション	実施率向上

305

中期目標

5年後の目指す姿

3. 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

項目	目標
専攻医の獲得	5名以上
救急科指導医資格の取得	2年以内

307

中期目標

5年後の目指す姿

2. 誇りと生きがいを持てる病院の創造

項目	目標
救急科の診療・活動の広報	ホームページやSNS を通じた広報

306

令和元年度 診療科目目標発表

 **企業長兼院長**
President & Director

宮地 正彦

309

 企業長兼院長

平成30年度の取り組みの結果(1)

＜医師確保について＞

目 標	評価	内 容
常勤医師数の増員・確保	X ↓ △	血液内科不在のまま 放射線診断科医不足のまま 総合内科医不足のまま 救急科:2名増加 腎臓内科:1名増加 呼吸器内科:1名増加 眼科:1名増加 内科専攻医4名、 初めての外科専攻医1名獲得
手術対応呼吸器外科医の代務	○→○	外科基幹施設獲得の準備
手術対応小児外科医の代務	○→○	
心臓外科医の招聘	△→○	3年後招聘できる可能性大。

310

 企業長兼院長

平成30年度の取り組みの結果(2)

＜癌診療、救急医療について＞

目 標	評価	内 容
癌診療の充実	◎ ↓ ◎	がん診療連携推進病院指定 ほぼ確実 がん拠点病院の可能性あり。 癌関連手術の増加 肺癌手術施行可能(15例/年) 外来化学療法室稼働増加 放射線治療数の増加
救急医療の維持、向上	X ↓ ◎	救急医の増加(1名から3名) 全科医師による救急医療 専攻医の救急直稼働持続 救急車数の増加:6200台 軽症患者の減少

311

 企業長兼院長

平成30年度の取り組みの結果(3)

＜教育について＞

目 標	評価	内 容
教育の強化 臨床研修センターの設置 大学教育と連動した教育	◎ ↓ ◎	臨床研修センターの設置 実習学生数の増加(7→20) マッチング希望者数の 増加(15→32) 学生見学者数の増加(60→120) 全職員に教育向上を徹底・実行
大学との連携強化	○ ↓ ○	6大学との実習教育の連携 愛知医科大学の救急部の サポート 浜松医大の血液内科診療 のサポート

312

平成30年度の取り組みの結果(4)

＜部門間、病診連携について＞

目 標	評価	内 容
部門間、医師間、職種間の問題の減少、問題解決法の確立	○ ↓ ○	問題発生時は当事者同士で話し合う。
関連医療機関との良好な連携 医師会、歯科医師会、薬剤師会との連携の強化	○ ↓ ◎	関連医療機関から紹介しやすいシステム作り 院外施設からの苦情の減少
両市との連携の強化	◎ ↓ ◎	両市の市長、議会、市民団体との交流回数の増加
中東遠地区の病院との連携の強化	◎ ↓ ◎	5病院の代表者などが集まる機会の増加

313

平成30年度の取り組みの結果(5)

＜経営について＞

目 標	評価	内 容
経営の赤字からの脱却	△ ↓ ○	経常損益で黒字(9903万円)
無駄な支出の削減	○ ↓ ◎	電子カルテ一式約3億円減額 低価格での機材購入:約2億円減額
入院単価の向上: 62,000円 外来単価の向上: 14,000円	△→○ ○→△	63,188円と達成 13,790円と達成。
入院稼働率の向上: 90%	△→△	86.9%と低下。

314

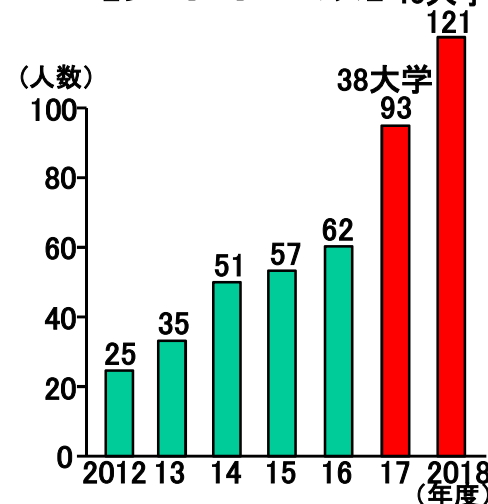
平成30年度の目標の達成度

1. 職員が楽しく働ける職場環境の整備
2. 初期研修医の確保: 12人以上
14人獲得
3. 血液内科医、放射線診断医の確保
血液内科医4月に。浜医放科と関係修復
4. 働き方改革: 効率よいシステムづくり
時間外勤務軽度減少
5. 医師の仕事の軽減: 医療秘書の増員(10名)
仕事内容拡大も人員補充不十分
6. 経営の安定、赤字からの脱却
経常損益で黒字化
7. 医療問題事例をなくす。 **未だ達成できず**

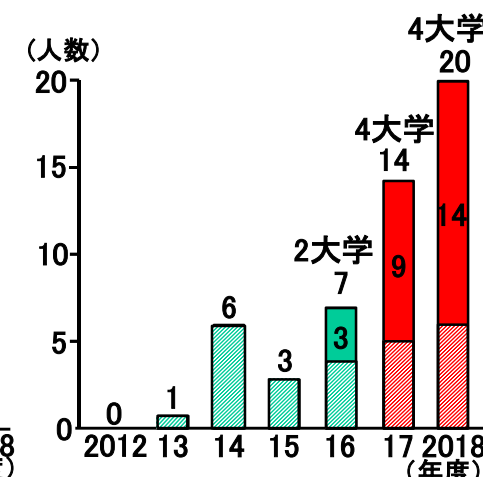
315

当院を見学・実習する学生数の変化

【見学学生数】^{45大学}



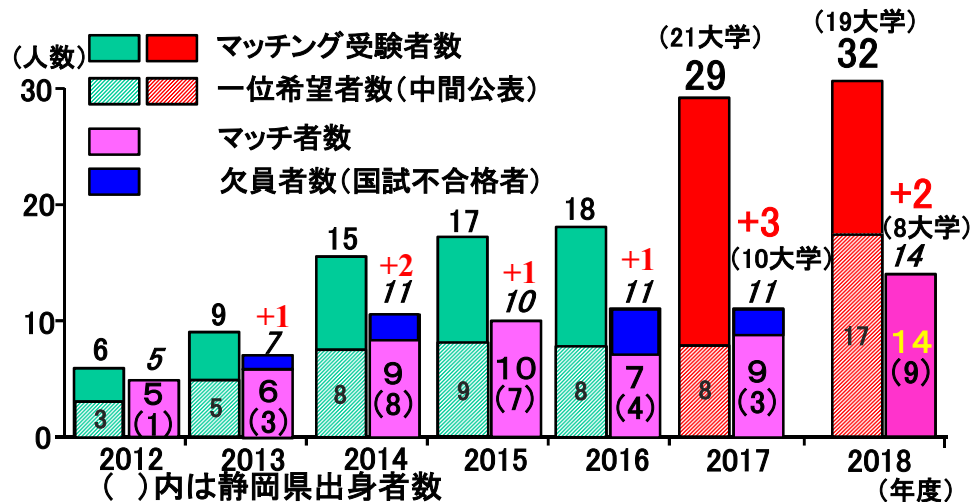
【実習学生数】^{4大学}



2017年度から見学生、実習生が飛躍的に増加。

名古屋大学から1週間のみの
救急実習学生

当院をマッチングする学生数の変化



赤字: 浜松医大からのたすき掛け研修医数

**2018年度は32名(19大学)、第一希望者17名
国家試験全員合格！ 県内13位から5位に躍進**

2019年度の目標 企業長兼院長

- 地域医療への貢献
 - 医師充足への一定の道筋をつける
 - 静岡県がん診療連携推進病院の指定を受ける
 - 第2期医療情報システムの円滑且つ確実な導入を行う
 - 紹介件数を前年度より3%増加させる
 - 手術件数(OPE室内)を4,800件/年(400件/月)以上とする
 - 人間ドック稼働を前年度より10%以上向上させる
 - 外来患者の8割以上は診療待ち時間を1時間以内にする
 - スポーツ医療によるサポートを具体化し地域への一歩を踏み出す
 - 純損益での黒字化を目指す
- 誇りと働きがいを持つ病院の創造
 - 患者満足度を前年より向上させる
 - 職員意識(意欲と満足度)を向上させる
 - 業務の効率化と人員配置の適正化により職場環境を改善する
 - 最適な病棟運営、病棟編成を追求する
 - 時間外勤務を月80時間以内とする(※医師は前年度より大幅に減少させる)
 - 院内保育園を拡充(3歳児受け入れ)する
 - ホームページの早期リニューアルにより情報発信力を強化する
 - 機能評価受審を見据え業務運用マニュアルを見直す
- 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す
 - 当院で研修する専攻医を前年度以上確保する
 - 優秀な初期研修医のフルマッチを継続する
 - 救急・集中治療学会の専門医研修施設の認定を受ける
 - 認定看護師等、各種資格者の育成計画を立案する
 - 病理解剖を10件以上実施する

318

企業長兼院長

中期的(3-5年)目標

- 全科の医師の充足(血液内科、消化器内科、糖尿病科、放射線科など)
- 3-5年目の研修医を20名以上
- 外来患者の待ち時間を1時間以内に90%
- 医師の時間外勤務をすべて60時間以内
- 院内保育所で5歳児まで預かるように
- DPCのII(特定)群病院
- 外科、整形外科での基幹施設認定
- がん拠点病院の指定獲得
- スポーツ関連センターの設置
- シミュレーションセンターの設置
- 予防医療の強化:ドック受診者数の増加(100人/日)、質の向上
- 災害・救急医療のためのスマートインター設置確定
- 累積欠損金12億円の半減を

319

企業長兼院長

中期目標(2019~2024年)

1. 地域医療への貢献

- 全科の医師を充足させる
- 救急医療をオール中東遠で支える
- 地域がん診療連携拠点病院の指定を目指す
- DPC特定病院群にジャンプアップする
- 地域医療連携を強化し地域包括ケアシステムの構築に貢献する
- スポーツ医療や各種団体との交流を通じて地域に貢献する
- 経常収支の黒字化を達成し持続可能な病院運営を実現する

320

中期目標(2019～2024年)

2. 誇りと働きがいを持てる病院の創造

- (1) 市民に愛され信頼される病院になる
 - ・患者満足度を継続的に向上させる
- (2) 職員が誇りと働きがいを実感できる環境を創る
 - ・職員意識(意欲と満足度)を継続的に向上させる
- (3) 県内屈指の急性期病院として中東遠ブランドを醸成する
- (4) 時間外勤務を月60時間以内にする
- (5) 院内保育園を拡充し子育てとの両立が図れる環境を整備する

321

決意

- ・楽しく働き、責任を持って、地域医療に貢献する。
- ・日本トップクラスの教育、臨床医療のできる病院をつくる。

323

中期目標(2019～2024年)

3. 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

- (1) 優秀な初期研修医のフルマッチを継続的に達成する
- (2) 専攻医(3～5年目の医師)を20名以上にする
- (3) すべての職種において教育プログラムを作成・実践する
- (4) 外科領域の専門医研修における基幹施設になる
 - ・心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、形成外科の設置
- (5) 救急科領域の専門医研修における基幹施設になる

322